



多摩区まちづくり協議会 ～12年のあゆみ～



2020年3月
多摩区まちづくり協議会

多摩区まちづくり協議会

～12年のあゆみ～

多摩区まちづくり協議会アーカイブ発刊にあたって

多摩区まちづくり協議会会長 葛生 茂

多摩区まちづくり協議会（以下「当協議会」）は6期 12 年間にわたり、地域のまちづくりの課題を抽出し、委員自らその解決にあたる活動をしてまいりました。

今般、川崎市の施策で「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、多様な地域資源を活かした魅力あふれるまちづくりを担う「ソーシャルデザインセンター（SDC）」が開設されることになり、当協議会は今年度末をもちまして活動を終了することとなりました。



過去 12 年間の活動内容を総括し、記録として残し、今後活動される多摩区内の市民活動団体並びに SDC のまちづくり活動の参考としていただくため、本冊子を編纂することといたしました。

当協議会では地域の課題を抽出し、地域包括ケアシステムの周知、子ども・子育て支援、高齢者支援、地域コミュニティづくり、環境・自然の保全、情報発信・マップづくり等をテーマに活動を行いました。具体的には、各テーマにおける学びの場として「多摩★まち大学」を延べ 42 回、また区内の市民活動団体をゲストとしてお招きし、団体の活動のお話をお茶を飲みながら聴いたり、まちづくりについて語り合ったりできる「多摩★まち Café」（交流・語りの場）を延べ 19 回開催してまいりました。

また、委員が自ら課題解決にあたる 9 つの「プロジェクト」を立ち上げ、活動してまいりました。

活動期間中、延べ 412 名の公募委員並びに団体推薦委員の方々が参画され、当協議会の各まちづくり活動を担っていただき、深く感謝申し上げます。

各委員の皆さまがそれぞれお住まいの地域で、まちづくり活動の中核を担っていただけることを期待申し上げます。

また、区民、市民活動団体、地域の公益団体、行政及びコンサルタントの皆さま方には、当協議会へのご理解・ご協力を賜り、また多くのご支援をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

多摩区長 萩原圭一

本市では、それぞれの時代状況や、課題等に応じて、コミュニティに関わる各種の施策を展開しており、その中で設置されたのが「多摩区まちづくり協議会」です。前身の多摩区まちづくり推進協議会の機能（地域課題の抽出及び解決）に、新たに『中間支援的機能』を持ち合わせた組織として 2008 年 6 月に活動を始め、地域の課題解決に向けた実践的な活動を展開しつつ、区内の市民活動団体間の交流促進に取り組むなど、6 期 12 年にわたり様々な活動を展開し、多くの成果を生み出してこられたことに対してまずは敬意を表したいと思います。



協議会は、その時々地域の課題を解決しようと、「まちカツ！（まちづくり活動発表会）」、「たまサロン」、「出張たまサロン」、「プロジェクト」、「多摩★まち大学」、そして「多摩★まち Café」などの区民に親しまれた活動を、地道にときには大胆に進めてこられました。2 月に開催された、一大事業である「まちカツ！」では、20 を超える様々なジャンルの市民活動団体が自分たちの活動を紹介し、お互いに交流・理解を深めていることを拝見し、区内の活動団体のネットワークづくりにつながっている素晴らしい取り組みだと感じました。「たまサロン」や「出張たまサロン」では、区民や市民活動団体の皆様が抱える地域課題について積極的に意見を聴取し、協議会が取り組むべき課題の考察に取り組まれてこられました。地域の課題解決に取り組まれた「プロジェクト」では、のちにコミュニティカフェの開設につながったものや、一般社団法人化されたものもあります。また、「多摩★まち大学」はまちづくり活動に役立つ学びの場を、「多摩★まち Café」は区内の様々な課題解決に取り組む団体による情報提供と区民交流の場を提供された他、市民活動団体等へ配布された広報誌「私たちのまちづくり」は最終号が 67 号を数えるなど、奮闘していただきました。それぞれの活動については、この報告書に記されておりますので、御覧ください。

これら 12 年間の活動の成果は、多摩区の地域社会形成に大きく寄与されているものと思っております。区役所といたしましても、地域課題解決に向けたさらなる取組を進めてまいります。

最後に、多摩区のまちづくりに多大な貢献をされてこられた「多摩区まちづくり協議会」の皆様におかれましては、長きにわたり協議会の運営、多摩区のまちづくりに御尽力いただきまして、厚く御礼申し上げます。

今後も、協議会で培った経験と能力を、多摩区のまちづくりに発揮していただきますようお願い申し上げます。誠にありがとうございました。

目次

第1章 多摩区まちづくり協議会について	1
1 多摩区まちづくり協議会とは	1
2 多摩区まちづくり協議会の組織構成と活動について	2
コラム	8
第2章 多摩区まちづくり協議会の活動実績	9
1 地域包括ケアシステムの普及	9
2 子ども・子育て支援	12
3 地域コミュニティづくり	16
4 環境・自然の保全	21
5 情報・マップづくり	26
コラム	29
第3章 多摩区まちづくり協議会での活動・思い出	30
1 歴代会長の思い出	30
2 研修企画部	33
3 広報編集部	33
4 プロジェクト	34
コラム	40
第4章 多摩区まちづくり協議会との関わり・思い出	41
稲田郷土史会	41
インターネット川崎ガイド	42
公益財団法人 かわさき市民活動センター	42
公益財団法人 かわさき市民しきん	43
かわさきの安全でおいしい水道水を守る会	43
NPO 法人 川崎フューチャー・ネットワーク	44
NPO 法人 ぐらす・かわさき	44
多摩区地域教育会議	45
多摩区でプレーパークをやっちゃおう会	45
多摩区認知症カフェ・地域カフェ交流連絡会	46

地域通貨たま運営委員会	46
チーム・たま	47
長尾台コミュニティバス利用者協議会	47
登戸研究所保存の会	48
「福島の子どもたちとともに」川崎市民の会	48
向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会	49
コラム	50
第5章 委員から一言	51
コラム	55
第6章 これまでの活動・会議	56
1 多摩区まちづくり協議会年度別総括表	56
2 多摩区まちづくり協議会活動年表	58
3 広報紙「私たちのまちづくり」索引一覧表	66
コラム	67
資料編	68
編集後記	72

※このページは白紙になります（印刷の際にはこの文字を消してください）

第1章 多摩区まちづくり協議会について

1 多摩区まちづくり協議会とは

(1) 川崎市のまちづくり推進組織とは

川崎市のまちづくり推進組織は、1993年から1997年にかけて各区において策定された「区づくり白書」の理念に基づき、区民の合意形成を図りながら行政のパートナーシップのもと、魅力あるまちづくりを目指すことも目的として、それまで各区において設置されていた「区民懇話会」を発展的に解消する形で2000年度までに各区に設置された組織である。

(2) 多摩区まちづくり協議会とは

川崎市では、地域における様々な課題を解決するため、多様なテーマで活動を行い、地域のまちづくりを推進する「まちづくり推進組織」を川崎市市内7区に設置することとした。

多摩区においては、2000年4月、住みよい魅力ある多摩区のまちづくりを推進するために、市民の主体的な参加による課題提起やその解決のための実践活動を行う場として、「多摩区まちづくり推進協議会（以下「推進協議会」という。）」が設置された。

推進協議会は、地域の課題の抽出と解決に向けた活動を主に行ってきた結果、実績が評価され、期待も大きくなっていったが、その一方で、区内に様々な市民活動団体が増え、活発に活動するようになってきた。このことから、4期8年に渡った推進協議会の活動にいったん区切りをつけ、区内の市民活動団体を支援する機能（中間支援的機能）を加え、より広範囲な区民の意見を活動に取り入れることができる組織として、2008年6月に「多摩区まちづくり協議会（以下「まち協」という。）」が設置されることとなった。

(3) 多摩区まちづくり協議会の構成員について

まち協の活動は、*各種団体から推薦された委員と公募による委員及び随時参加可能な各部・プロジェクトに属するメンバーにより支えられている。

区民自らまちの課題を解決するため、課題解決に取り組む市民活動団体を、区役所と協働で支援する活動と、幅広く区民の意見を取り入れながら、委員自らもテーマに沿った課題解決を行う「プロジェクト」活動を行っている。

※推薦母体（50音順）

小学校長会（多摩区支部校長会）、多摩区観光協会、多摩区公営保育園園長会、多摩区子ども会連合会、多摩区社会福祉協議会、多摩区商店街連合会、多摩区地域教育会議、多摩区地域女性連

絡協議会、多摩区町会連合会、多摩区PTA協議会、多摩区文化協会、多摩区民生委員児童委員協議会、多摩区老人クラブ連合会、中学校長会地区会議（多摩・麻生地区会議）

（４）多摩区まちづくり協議会のミッション

①まちの課題の抽出とその解決

まちづくりに関する課題を抽出し、委員・メンバー自らその解決にあたる。

②中間支援的機能の拡充

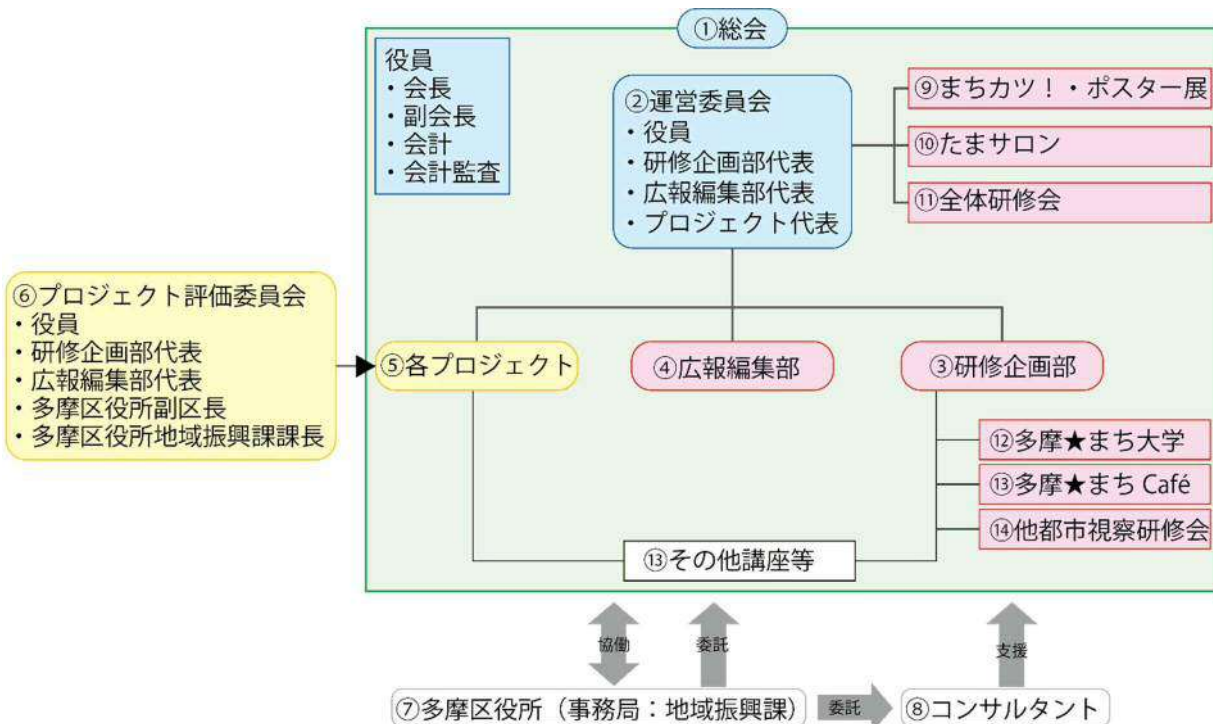
区民や市民活動団体との情報交換、交流とネットワークの場を提供する。

※支援対象となる「市民活動団体」とは、多摩区に活動の拠点がある、または多摩区も活動の対象としている非営利の団体を原則とする。活動内容は、原則多摩区の地域課題の解決にかかわるまちづくり活動を行うものとし、政治・宗教などの活動は対象としない。

２ 多摩区まちづくり協議会の組織構成と活動について

（１）多摩区まちづくり協議会の組織構成

まち協の組織構成は、次のとおりである。



■ まち協の運営に関わるもの ■ まちの課題の抽出とその解決に関わるもの ■ 中間支援的機能の拡充に関わるもの

(2) 組織の内容

組織名	内容
①総会	事業実施・決算の報告、事業計画・予算の報告、役員承認等を行う（原則年1回）。
②運営委員会	まち協の運営方針の決定、事業の企画・実施、各組織間の連絡調整等を行う。月1回定例会を開催する。
③研修企画部	まちづくりに関する活動に必要な研修や、市民活動団体の発表と交流の場を企画・実施する。多摩★まち大学、多摩★まちCafé、他都市視察研修会を主に担当する。月1回定例会を開催する。
④広報編集部	広報紙（年4回発行）の企画・編集、ホームページの更新作業を行う。
⑤プロジェクト	区内の地域課題を解決するための活動を、運営委員会と連携を図りながら行政との協働により実践する。月1回程度の定例会を開催する。
⑥プロジェクト評価委員会	プロジェクトの新規設置や継続・廃止について、まち協の設置目的に沿って評価を行い、その審議結果を運営委員会に報告する。評価委員会は、役員、研修企画部代表、広報編集部代表、副区長、地域振興課長で構成。その報告に基づき、運営委員会がプロジェクトの新規設置や継続・廃止の決定を行う。

組織名	役割
⑦多摩区 （事務局：地域振興課）	まち協運営のための補助を行う。
⑧コンサルタント	まち協が自立的に事業を実施できるよう必要な企画及び運営に対する支援や助言を、委員の合意形成を図りながら行う。

(3) 活動内容

活動	内容
⑨まちカツ！・ポスター展	まち協の活動を発表するとともに、多摩区の市民活動団体の発表と交流を提供する場。ポスター展は、まちカツ！の開催に合わせて、多摩区の市民活動団体の活動紹介ポスターをアトリウムに展示する企画。年1回開催し、1年間の活動を振り返り、まち協の事業についてもアンケート評価を行う。担当は運営委員会。
⑩たまサロン	地域の課題を出し合い、意見交換する場。年1回程度開催し、ここで出された課題を発掘してまち協として取り組んでいる。また、「出張たまサロン」として、区内のイベント等でアンケート調査も実施。担当は運営委員会。
⑪全体研修会	年1回、委員・メンバーを対象に、まちづくり活動に必要な知識を学習する。担当は運営委員会。
⑫多摩★まち大学	市民活動団体や区民を対象に、まちづくり活動に役立つ学びの場を提供。担当は研修企画部。（※各プロジェクトも研修企画部と連携して開催することができる。）

活 動	内 容
⑬多摩★まちCafé	中間支援活動の一環として市民活動団体に活動発表の場を提供するとともに、各団体同士や興味がある人同士の交流の場を提供する。担当は研修企画部。
⑭他都市視察研修会	年1回、委員・メンバーを対象に他都市で活動している団体と意見交換し、事例を見学する。（※一般の参加も可能。）担当は研修企画部。
⑮その他講座等	⑨⑩以外での、まちづくり活動に必要な知識・技術を学ぶため、勉強会や講座。担当は研修企画部、各プロジェクト。
⑯コラボ検討会	活動を行うに当たって、行政の関連所管や区内の関係組織との情報交換を通して、連携体制を築くことや、活動の棲み分けを行う事を目的に開催する。必要に応じて、まち協のどの組織も開催可能。
⑰オリエンテーション	期のはじめに行う新委員向け説明会。まち協の活動・運営に関する説明。
⑱その他	中間支援的かつ公共的な役割の推進、地域課題解決のために必要と認められる活動を行う。

(4) プロジェクトについて

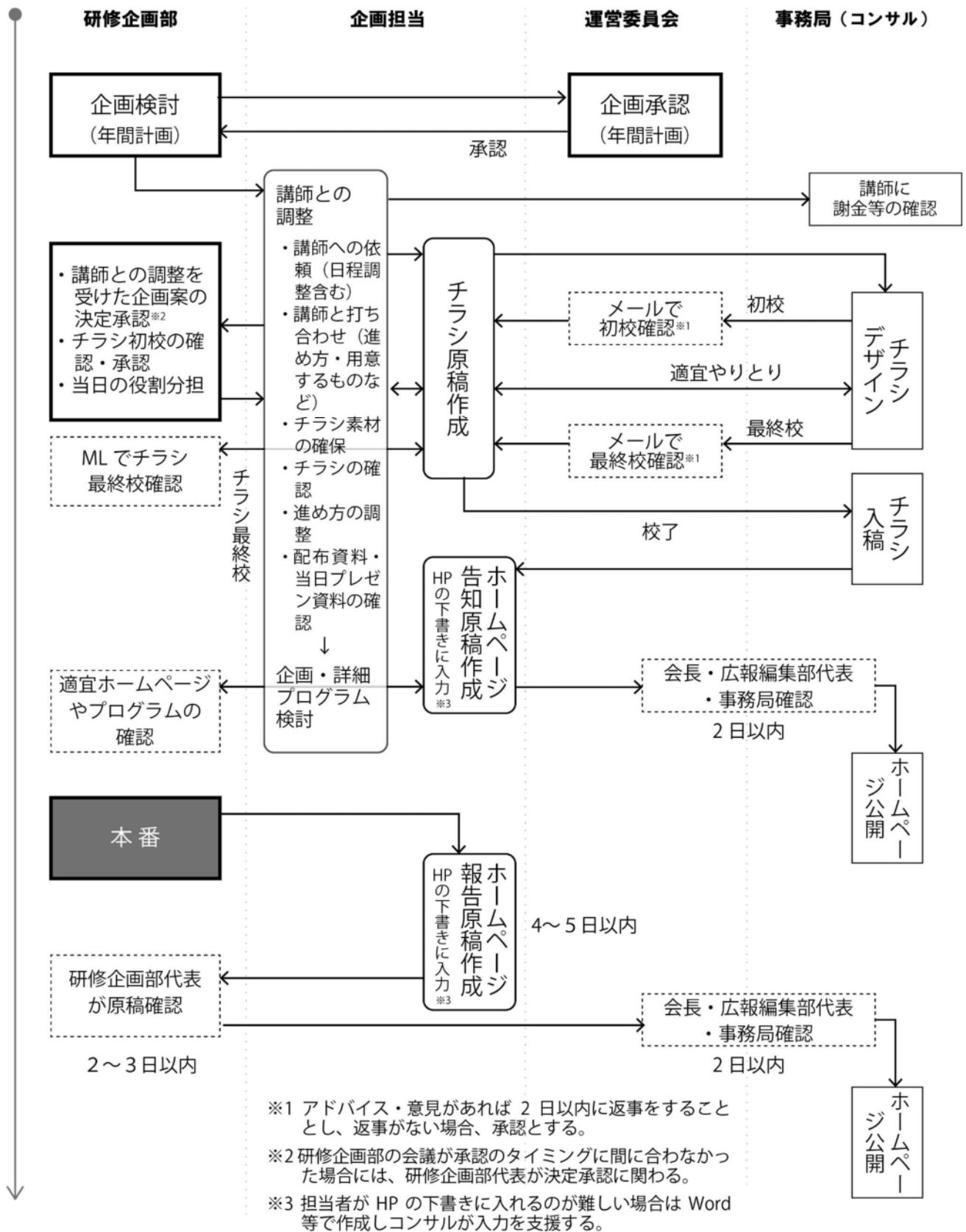
- ・6期12年のなかで、次の9つのプロジェクトが生まれ、地域の課題解決に取り組んだ。
(詳細はP34参照)

①区民でつくろう、地域交通
②花とみどりでまちづくり
③多摩区の観光資源・地産地消のマップづくり
④多摩区の居場所ふらっと（世代間の交流ができるコミュニティセンターをつくろう）
⑤家庭の「資源物」分別回収を広めよう
⑥まちづくりネットワーク応援隊（まちづくりグループの情報交換・交流ネットワークづくり）
⑦多摩エコスタイル
⑧マグネット多摩
⑨たまむすび

(5) 多摩区まちづくり協議会の事業の進め方（参考）

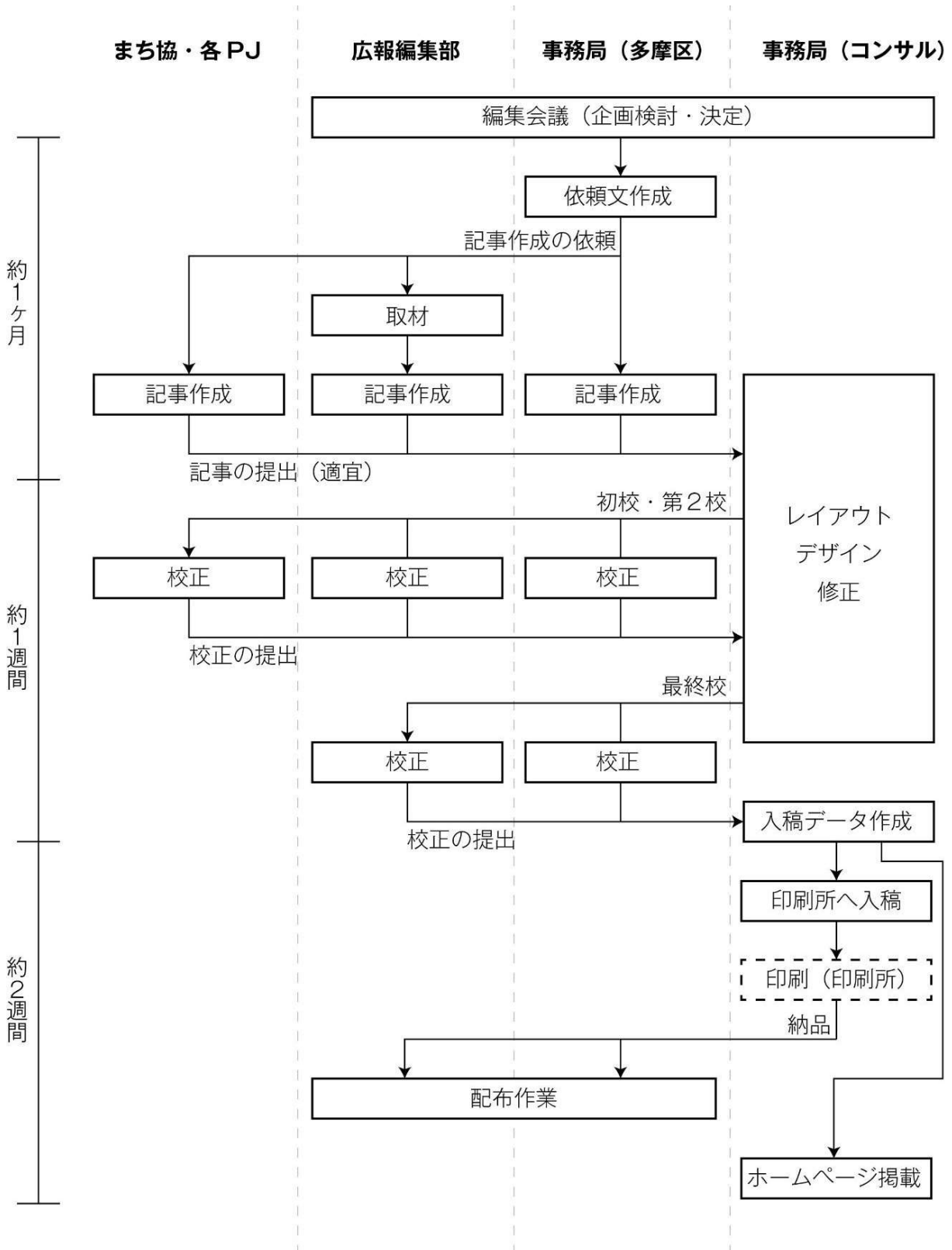
次の3つの資料は、まち協の委員やメンバーが事業を実施するうえでのスキーム、ルールについて共有するため、自分たちで考え作成した「多摩区まちづくり協議会ガイド」から抜粋したものである。

①研修企画部 企画の検討から実施の流れ



②広報編集部 企画の検討から発行までの流れ

広報誌「私たちのまちづくり」は、多摩区まちづくり協議会 NEWS として、年4回（概ね6月、9月、12月、3月）発行している（発行時期は前後する場合あり）。まち協の活動やプロジェクトの活動紹介、区内の様々な情報や活動団体の紹介等を掲載している。まち協所属の広報編集部が企画・制作を担当している。



■事業実施時の危機管理対策について

次のとおり、まち協では事業実施時の事故発生を防ぐため、危機管理のチェック項目を定めている。気をつけていても、事故は起こってしまうもの。事業を行う前に必ず以下①を確認すること。また、事故が起きた場合も速やかに②、③を確認すること。

① 実施（事故発生）前の安全管理

- 主催者として、役割分担、緊急連絡体制を確認
- スタッフ、参加団体等の安全対策の共有
- 開催案内のチラシ等で、参加者自身でも安全対策をとれるよう呼びかけ
- 土日祝日に開催する場合、事前に救急情報医療センターに連絡して、当日行ける病院を調査
- ボランティア保険（傷害保険、賠償責任保険）等への加入
- 食品を扱う場合の衛生課への届出、火を扱う場合の消防署への届出
- 食品を扱う場合、特に子どもへは食物アレルギーを保護者に確認
- どのような危険要因があるかを事前に十分な時間をとって確認
- 救護テントや救急セットの準備
- 医師や看護師がいるか確認
- 区役所会議室等で行う場合でも、緊急避難経路を確認
- 当日雨天が見込まれる場合、事業縮小等を事前に計画し、台風等荒天が見込まれる場合は、前日中止も視野に
- 気がかりなことがあれば、必ず担当スタッフ等に相談のうえ対処
- 事業で使用する用具（器材）の安全確認
- 参加団体が多数の場合、事前の打合せ時におけるスケジュール・役割分担の確認等と併せて安全対策の確認も共有
- 開催案内のチラシ等で、参加者自身でも安全対策をとれるよう呼びかけ
- 開催中に気がかりなことがあれば、必ず周りの担当スタッフ等メンバーに相談のうえ対応

② 参加者に怪我を負わせてしまった際の当日の対応

- 第一に被害者のケア（医師や看護師がいらないか確認）、必要であれば救急車で搬送
- 対応は一人でせず、その場の担当者等と連携し、状況等速やかに代表者へ報告
- 被害者の氏名、連絡先等を確認
- 速やかに事故が起きた原因を確認
- 代表からまち協会長、事務局へ一報

③ 事故発生翌日以降の対応

- 被害者のケア、経過観察時の状況確認
- 〔被害者のもとに代表・会長・事務局で伺い事故が起きた時の状況や被害状況について確認し、事業についての手落ち等について報告する。〕
- 事故が起きた原因を基に、今後の対策等を事故報告書に取りまとめ、運営委員会で報告し、まち協としての今後の対応を確認

私はまち協に14年間お世話になりました（2008年4月～2020年3月末）。その間、ボランティアで活動するコツのようなものを多く学びました。このコラムは、私が会長であったときに、まち協の更なる充実と発展のためにまとめたものに後日改めて手を加えたものです。

1. まち協の運営に当たって

(1) 人材集め・・・一緒に活動をする人材が集まらなければ、何もできません。しかし、応募してきた人は、いろいろな経歴を持ち、活動に対してプライオリティの高い人/低い人、様々な考えの方がいます。また家庭環境や活動できる時間などが異なります。

行政との協働事業は、日中の活動が基本になりますが、定職についている人たちは、土、日曜日か18時以降が活動に都合が良い。従って活動の種類や構成メンバーによって活動時間帯を配慮しなければなりません。

(2) 性格及び生活環境に注目する・・・無償のボランティア活動は、時間、生活費、体力に余裕がないと長続きしません。また、次のような中心的な活動をお願いできる人を選べると団体の活動はスムーズに進みます。

①実働を厭わない（体を動かしてくれる）人

②その中からボランティア活動を最優先できる4～5人を見つけること

③建設的な意見を述べる人

④評論家（口先だけで体を動かさない人）は案外知識が広いが、議論好きな人が多いので要注意。ただしこういう人をうまく取り込むことも大切です。

(3) 運営の骨子の作成・・・上記(2)①②の人を中心に運営の骨子をつくること。大勢だと議論に時間がかかりまとまらないため、団体内の各グループリーダー等を中心に、骨子を作ってから皆さんの意見を謙虚に聞き加筆修正を加える。

(4) 行政とは良好な関係を築くこと…協働事業といえ、常に感謝の気持ちを持っていること

①行政に担当してもらった業務をきちっと分けて相互で認めておくこと

②世間に対する信用を活用する。例えば、公共関係機関への交渉は協力してもらう。

(5) 自己資金で活動をしている団体との差別化をはっきりさせる（意識する）ことが大切

①まち協の場合、自己資金で活動をしている団体と同じような活動では活動団体からクレームが来る

②そのため、まち協では中間支援的活動も重点的に行うことにしました。例えば多摩★まちCafé、多摩★まち大学、まちカツ！での団体の活動紹介・交流など

* 中間支援的活動とは・・・活動の情報発信の場や区民や活動団体との交流の場を提供すること

第2章 多摩区まちづくり協議会の活動実績

まち協では、6期12年にわたり、地域課題や区民のニーズ、時代の流れなどを踏まえて、いろいろな活動を行ってきたが、これらを5つのテーマに整理して記載した。

1. 地域包括ケアシステムの普及
2. 子ども・子育て支援
3. 地域コミュニティづくり
4. 環境・自然の保全
5. 情報発信・マップづくり

それぞれのテーマについて、内容に合わせて次のような取組で行った。

※以下、個人の氏名については敬称略、組織名・役職は当時のもの

※表内の事業名は略称を使用

※表内の各事業は、カテゴリ毎の掲載としているため重複あり

1 地域包括ケアシステムの普及

(1) 取り上げた背景・理由

川崎市では、2015年3月に「川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン」を策定した。そもそも地域包括ケアシステムは、地域において「医療」「介護」「介護予防」「住まい」「生活支援」等の必要なサービスが的確に提供され、高齢者をはじめ誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるとしたことが特徴である。

全国の多くの自治体では対象を高齢者に限定しているが、川崎市では、高齢者・子ども・子育て世代・障害者を対象とした市独自の「地域包括ケアシステム」構築を2016年度から推進することとなった。まち協は、2015年度に先行する形で区民へ広く周知することを目的に、産学公民協働で「地域包括ケアシステム」を学ぶ場として、「多摩★まち大学」を開催することとした。



(2) 目的

地域包括ケアシステムについての普及・理解向上を目的とするため、各分野の学識経験者、専門家、並びに行政の担当者に講師を依頼し、開催した。また、互助活動の担い手づくりについて学ぶため、生活支援分野において活動している団体から事例紹介の講演をお願いした。

(3) 活動実績

・具体的な活動実績として、次のような活動を行った。

実施時期	タイトル	講師/参加団体	概要
2015年度 まち大学 「知って得する地域包括ケアシステム先取り講座」を4回シリーズで開催			
2015年8月	第1回 市独自の地域包括ケアシステムを知ろう	①健康福祉局地域包括ケア推進室 担当課長 熊切真奈美 ②多摩区役所地域保健福祉課 担当課長 富澤美奈子	・川崎市と多摩区の高齢化に関するデータからみる多摩区の将来 ・川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンについて
2015年9月	第2回 地域でシニアライフを2倍3倍楽しむヒントを探ろう	・東京都健康長寿医療センター 社会参加と地域保健研究チーム 研究部長 藤原佳典	・全世代を取り込んだシステムである川崎市地域包括ケアシステムについて ・ソーシャルキャピタル：地域で互いに助け合う力、団結力、ご近所の力の必要性
2015年10月	第3回 (働く・暮らす・子育てする) ワークライフバランスを考えよう (於：日本女子大学キャンパス)	①日本女子大学社会福祉学科 准教授 黒岩亮子 ②多摩区役所こども支援室 室長 太山和枝	・いまだにM字カーブになっている女性の就業率 ・地域と女性、子育てママとのつながりを多世代でつくっていくことの必要性
2015年11月	第4回 地域の暮らしを楽しくするつながりをつくろう!	①日本女子大学社会福祉学科 准教授 黒岩亮子 ②多摩区地域保健福祉課 担当課長 富澤美奈子 担当係長 松島敦子	・第1～3回の振り返り ・地域の方からのメッセージの紹介「青春とは心の持ち方をいうのだ。理想を失う時、はじめて人は老いる。希望を持つかぎり、ひとは青春であり続ける」
2016年度 まち大学 「あなたのチカラを地域で活かそう」を4回シリーズで開催			
2016年12月	第1回 地域包括ケアシステムの取組を学ぼう	①多摩区役所地域ケア推進担当 担当係長 小玉貴子 地域支援担当係長 池上洋未 ②あうん介護センター 所長 吉澤 保	・多摩区の地域包括ケアシステムの取組について ・知っておこう！在宅医療と在宅介護の現状と今後の課題について
2017年1月	第2回 高齢者支援サービスの取組事例を知ろう	①かりがね台自治会 会長 本多武夫 ②すずの会代表 鈴木恵子 ③多摩区まちづくり協議会 倉田 宏	・高齢者支援サービスに取り組んでいる団体事例、町内会・自治会及びボランティア団体の取組事例を学ぶ

実施時期	タイトル	講師/参加団体	概要
2017年2月	第3回 子ども・子育て支援を知ろう・学ぼう	①日本女子大学社会福祉学科 准教授 黒岩亮子 ②多摩区役所地域みまもり支援センター担当部長 太山和枝 ③たまむすび代表 稲田光世	・不安を抱える子育て、児童虐待、ニート、シニア世代の老々介護、認知症、介護についての課題が想定される中、必要とされる地域の互助活動や自助・互助・共助・公助について
2017年3月	第4回 地域でできる生活支援サービスの担い手づくりを考えよう	①すずの会代表 鈴木恵子 ②多摩区役所地域ケア推進担当担当係長 小玉貴子	・「川崎市介護予防・日常生活支援総合事業」について ・地域での仲間づくり及び巻き込みについて（「すずの会」の総合事業の取組から）

（４）活動による成果

地域包括ケアシステム普及活動を市内で先行して行うことができた。これにより、理解度の向上や普及の一端を担った。

行政、大学、民間から講師をお招きし、協働で先取り講座を開催できたことは意義のあるものと感じている。

2015年、2016年にわたり計8回の開催を通じて、地域包括ケアシステムとは、地域の実情にも応じて、「医療・介護・介護予防・住まい・生活支援・福祉」等が切れ目なく一体的に提供されている体制であり、これを実現するためには、「自助・互助・共助・公助」の役割を理解し、地域住民と行政が一体となって地域全体で推進していくことが必要であることを学ぶことができた。

参加者の合計は371名と多くの参加があった。

2015年度 参加者数：第1回55名、第2回50名、第3回67名、第4回43名
合計215名

2016年度 参加者数：第1回40名、第2回54名、第3回29名、第4回33名
合計156名

また、高齢者支援だけでなく、川崎市独自の地域包括ケアシステムに含まれる子ども・子育て支援も取り上げることができ、その後の活動強化につなげることができた。



2 子ども・子育て支援

(1) 取り上げた背景・理由

まち協は、2008年度から、より広い市民参加で、既存の各種団体と連携した活動（中間支援的活動）と課題解決のため、6つのプロジェクトを置いた。そのプロジェクトの1つとして、2008年度に多世代交流ができる場を提供する目的で、「世代間の交流ができるコミュニティセンターをつくろう」のプロジェクトをスタートさせた。

このプロジェクトは、子どもからお年寄りまで交流できる場づくりや、世代を超えて繋がるコミュニティの形成と仕組みづくり、将来的には拠点づくりを目指して立ち上がった。

その後、このプロジェクトは2012年度に「多摩の居場所ふらっと」と改名し、老人いこいの家やこども文化センター等の地域で多世代にわたり広く活動を展開し、2013年度に終結した。

その後、当初は、シニア層に関わる問題意識が強かったが、期ごとの委員やメンバーの問題意識や年齢層により、「子ども・子育て支援」とカテゴリーは変遷を辿った。多摩区の子育て世代が置かれている状況や子育て支援状況を把握したことにより、子育て世代が抱えている課題を新しいプロジェクトの設置や、「多摩★まち大学」、「多摩★まちCafé」として掘り下げていった。



(2) 目的・趣旨

■プロジェクト：

- ①「世代間の交流ができるコミュニティセンターをつくろう」及び「多摩の居場所ふらっと」は、川崎市が地域包括ケアシステムを実施する前から、地域での多世代の支え合いの必要性を感じ、交流する場づくりと世代を超えて繋がるコミュニティ形成とその仕組みづくりを目的にしている。
- ②「たまむすび～あそび場支援プラットフォーム～」は、多世代を取り巻く現状を調査し、課題を把握すると共に、解決に向けて活動団体とのネットワーク形成を目的としている。

■他都市視察研修：

- ①子どもの放課後の過ごし方のモデルとして「地域づくり総務大臣表彰」を受賞している江戸川のすくすくスクールを視察。川崎市のわくわくプラザと地域の寺子屋事業を統合したもので、親にとっても通所する子どもにとっても負担がない全国的なモデル事業。

②(株)まちづくり立川の取組であるシェアオフィスを視察。子育て中の人々が起業できるようにシェアオフィス内に保育施設完備している。

■たまサロン：

「地域で子育てができるまちに」では、子育てに関連する団体で話し合い、課題に対して必要なこと等の意見を出し合った。

「子育てにやさしい」まちづくりでは、参加者から主に遊びの環境について話し合った。

■多摩★まち大学：

①働く・暮らす・子育てする「ワークライフバランスを考えよう」と②「子ども・子育て支援を知ろう・学ぼう」はいずれも「多摩★まち大学」のシリーズで扱ったもので、①は地域包括ケアシステム先取り講座3回目、②はあなたのチカラを地域で活かそうの3回目として実施した。専門家等から子育て世代が抱える状況を客観的に知識を得た。③子ども・子育て部会として、子育て世代や地域での子どもの安全に焦点をあてた講座も実施した。

■多摩★まちCafé：

2008年度から「子ども・子育て支援」に関する「多摩★まちCafé」は9回実施しており、その都度、テーマに関するゲスト団体をお呼びしてカフェ感覚でお茶を飲みながら気楽に団体の活動を聞くことや活動団体同士の交流を主旨としている。

(3) 活動実績

実施年月	タイトル	講師/参加団体等	概要
2008年度～ 2010年度	プロジェクト ※「世代間の交流ができる コミュニティセンター をつくろう」		お年寄りから子どもたちまで交流できる場づくり
2011年9月	たまサロン 「地域で子育てができる まちに」	①多摩区地域教育会議 ②(特非)ままとんきっず ③シニアリーダー多摩の集い ④多摩区子ども会連合会 ⑤多摩区まちづくり協議会	たまサロンの8つのテーマのうちの1つとして意見交換
2011年度～ 2013年度	プロジェクト ※「多摩の居場所ふらっと」に改名		地域の人が多世代で交流を持ち、地域のきずなを深めふらっと立ち寄れる場づくり
2012年12月	まちCafé 「子ども」	①多摩区民生委員児童委員協議会 ②かわさき水辺の楽校 ③(特非)ぐらす・かわさき ④多摩区でプレーパークをやっちゃおう会	区内で活動する4つの団体から話を聞く

実施年月	タイトル	講師/参加団体等	概要
2013年9月	まちCafé 「安心して子育てできる まち多摩」	①孫に好かれるシニアからの提案 ②たまたま子育てネットワーク ③多摩区の公園を拠点とした ネットワーク	まちぐるみで出来る子育て をゲスト団体の話を聞きな がら考える
2013年11月	まちCafé 「多世代交流を広げよ う」	①みた・まちもりカフェ ②たまたまもも倶楽部 ③コミュニティカフェまめり	多世代交流をまちに広げて いくためのアイデアを語り 合う
2015年3月	プロジェクト 「たまむすび～あそび場 支援プラットホーム」 (2017年度終結)		多世代を取り巻く現状を調 査し、課題を把握すると共に 解決に向けて、活動団体との ネットワーク形成
2015年3月	まちCafé 「カフェde折り紙」	①おりづるの会 ②からふる！ ③ニケ領せせらぎ館	折り紙を通して多世代交流
2015年6月	まちCafé 「大学×子ども」	①明治大学：多摩区子ども探求 クラブ・登戸探求プロジェクト ②日本女子大学：SAKU LABO ③専修大学：ネットワーク情報学部	多摩区ならではの「学び」の 体験を親子で体験
2015年10月	まち大学 働く・暮らす・子育てする 「ワークライフバランス を考えよう」地域包括ケ アシステム先取り講座3 回目	・日本女子大学社会福祉学科 准教授 黒岩亮子	地域と女性、子育てママとの つながりを多世代で作る事 例紹介等
2015年10月	他都市視察研修 防災×「学童」支援	・江戸川区すくすくスクール	地域住民によるコミュニテ ィづくり：学童への地域支援 視察
2016年11月	たまサロン 「子育てにやさしい」 まちづくり	・グループワーク	5つのテーマの1つ 主に子どもの遊びの環境に ついて意見交換
2016年12月	まちCafé 「食を通じた地域の人々 のつながり」	①日本女子大学社会福祉学科 准教授 黒岩亮子 ②多摩区民生委員児童委員協議会 上原 武 ③すげ寺子屋食堂福昌寺 飯沼康祐・矢車佑介	食を通して多世代がつなが る「みんなで食べる・場づく りとなる『こども食堂』」に 焦点を充て、多摩区の子ども や高齢者の生活実態につい て意見交換
2017年2月	まち大学 「子ども・子育て支援を 知ろう・学ぼう」	①日本女子大学社会福祉学科 准教授 黒岩亮子 ②多摩区役所地域みまもり支援 センター担当部長 太山和枝 ③たまむすび代表 稲田光世	あなたのチカラを地域で活 かそう4回シリーズの3回 目。子ども・子育て支援状 況を知る
2017年10月	まちCafé 「地域の寺子屋を知ろう」	①寺子屋東菅・登戸 ②みた・まちもり寺子屋 ③寺子屋南生田	川崎市教育委員会が実施し ている地域の寺子屋事業の 運営団体からの情報提供と 交流
2018年11月	他都市視察研修 (株)まちづくり立川		子育て中の人々が起業でき るようにシェアオフィス内に 完備された保育施設視察

実施年月	タイトル	講師/参加団体等	概要
2019年2月	まちCafé 「ママと子どもの子育て Lab.」	①(特非) ままとんきっず ②生田まちぐるみ ③ヤクルト(神奈川県東部ヤクルト 販売株式会社)	地域に根ざしたユニークな 子育て支援をしている団体を 招き情報交換
2019年3月	まち大学 がんばりすぎない子育て 「きっとだいじょうぶ」	・フリースペースえん 代表 西野博之	子育て中の心配事の話をして 聞いて子どもと楽しく過ごせる ヒントを見つける
2019年10月	まちCafé 知ってる? 「子連れで行 ける癒しの空間♪」	①おしゃべりサロンあゆみ ②コミュニティーハウスMUKU ③まちプロ中野島	地域の子連れで行ける居心 地の良い場を提供している 方の話を聞く
2020年2月	まち大学 「地域で子どもを守ろう」	①多摩警察署 スクールサポーター 藤木 清 ②多摩少年補導員 遠藤 亮	地域で子どもの見守りをし ている団体のお話を聞く

(4) 活動の成果

地域の人が多世代で交流を持ち、地域のきずなを深め、ふらっと立ち寄れる場づくりを目指したプロジェクト「多摩の居場所 ふらっと」の長年にわたる地域密着型の活動の功績で、地域の子育て支援団体との連携ができた。また、「たまむすび～あそび場支援プラットフォーム～」のプロジェクトの活動で、団体とのネットワーク形成が広がり、顔が見える関係が構築できた。(図1参照)

「子ども・子育て支援」に関する講座は、子育て世代が参加しやすいように日時を考慮したり、保育を別室で設けたりしたが、参加する子育て世代によっては、お子さんと同室の方が安心感があることが分かった。

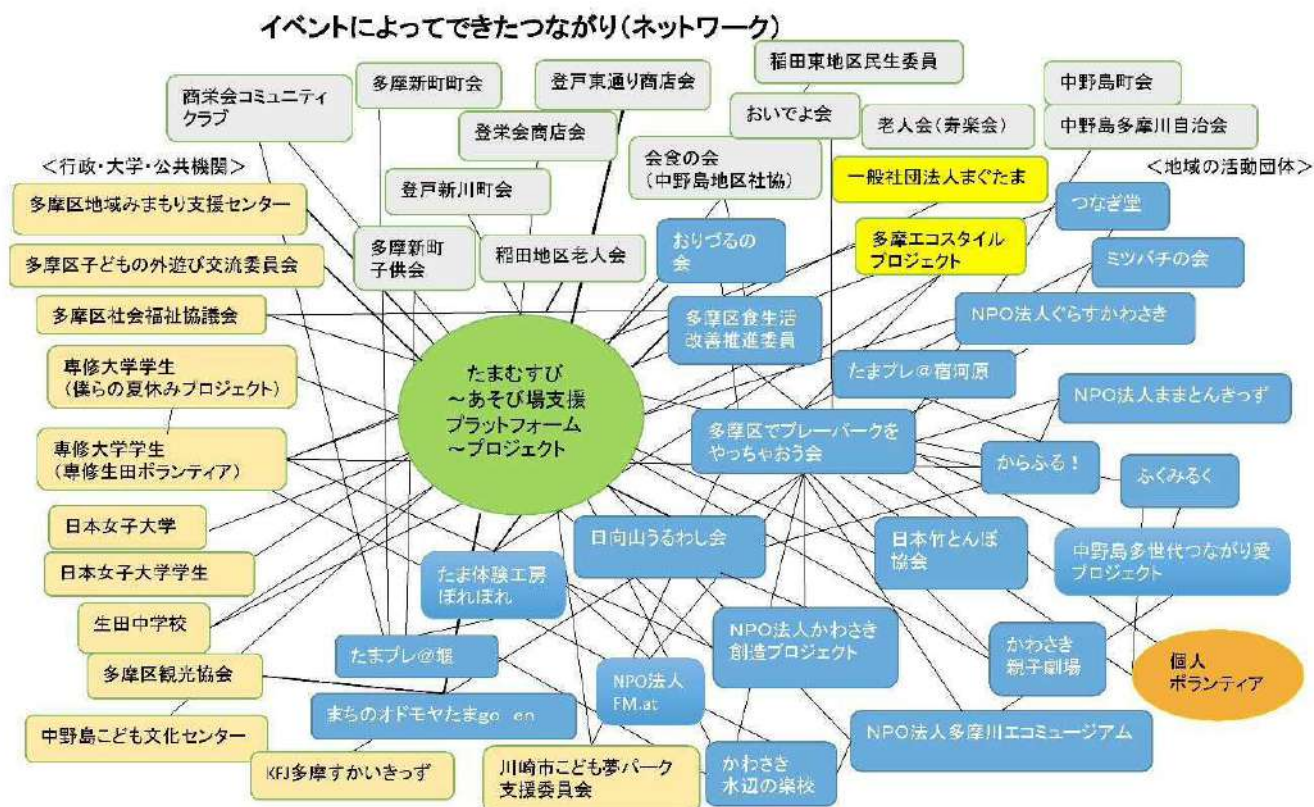
2018年度、研修企画部会の中に専門部会としての「子ども・子育て」部会が立ち上がった。その背景は、委員やメンバーに区内の保育園園長や地域で子育て支援を行っている方・少年補導員・子育てヘルパー・生涯学習支援相談員等、子育てに関する専門家が属していたからである。

子育て環境を直視し、子育て世代の戸惑いや悩み等に日常的に向き合い、地域の子育て団体の情報を豊富に持っている委員やメンバーと、子育て世代の抱えている問題点を毎月の専門部会で共有できた結果、焦点を見据えての講座等を企画することができた。

「多摩まち★Café」では、事前にゲスト団体と打ち合わせを持ち、話し合う事で企画者の思いやゲスト団体の日常の活動をお聞きし、企画をすり合わせ、企画がぶれないようにした事も大切なことだと思った。



■「たまむすび」プロジェクト 団体とのネットワーク形成（図1）



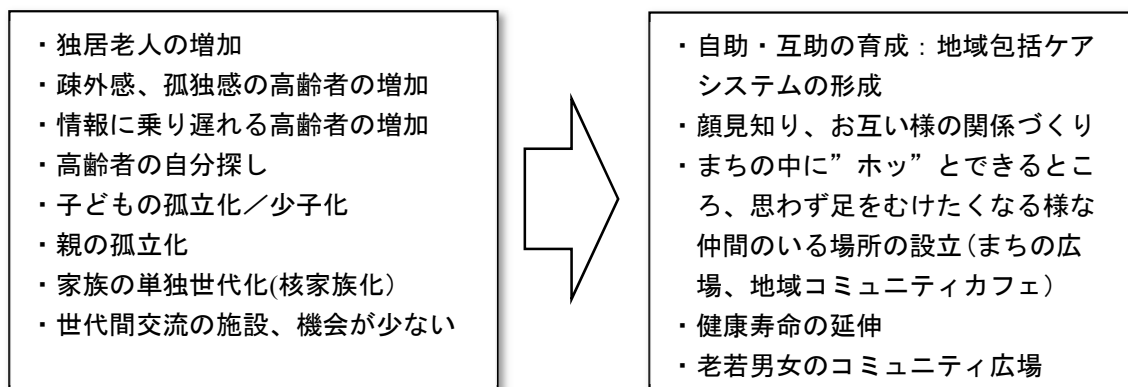
3 地域コミュニティづくり

(1) 取り上げた背景・理由

全国的に少子高齢化が進んでいる。特に2025年には団塊の世代と呼ばれている人たちが75歳以上の後期高齢者になり、人口の1/4になるという超高齢社会を迎える。多摩区においてもその傾向は変わらず、2015年の高齢化率（18.7%）が、10年後には22.5%、30年後には32.5%になると推計されている。一方、川崎市では平均寿命と健康寿命との差が男女とも全国平均を上回り、女性が13.6年、男性は10.7年で大都市中で最も大きい。ということは闘病生活が長いことを意味している。その結果、多摩区内の認知症患者も平成22年から15年後には約2倍（6,700人）に増加し、更に独居老人も過去20年間で5.7倍、高齢者夫婦のみの世帯数も約3.8倍になると予想されている。



また、2011年の東日本大震災（M9.0）に代表されるような大きな自然災害が頻発し、今後も相模トラフで起こるM8.0クラスの大地震が首都圏で発生することが予想されている。台風や降雨による被害も甚大化している。こうした社会及び自然環境が変わり、又医療や介護など社会保障の費用が膨らむ中、安心安全なまちづくりの構築が大変重要になってきた。そこで地域での人間関係の見直しが求められ、顔の見える、ご近所づきあいのあるまちづくりが進められている。そのベースとなる安らぎのできる場としてコミュニティカフェづくりやこども食堂等の開設が近年目立つ様になってきた。



(2) 目的

健康で長生きする秘訣の一つは、きょうよう（今日出かける用事）ときょういく（今日行くところ）を持っていることだと言われる。また上記活動の目標として掲げた項目を地域に形成することも大切である。私たちの活動は、区民の皆様はそのことを理解していただき（啓発）、行動を起こしていただくきっかけづくりを提供することを目的としている。

(3) 活動実績

実施年月	タイトル等	講師等	概要
2008年9月	たまサロン	・ グループワーク	多摩区のまちの課題について意見交換を行い、まち協で実施するプロジェクトを検討
2008年度～ 2011年度～	プロジェクト 「世代間の交流ができる コミュニティセンターを 作ろう」 「多摩の居場所ふらっと」	・ プロジェクト代表 久野道子	コミュニティセンターを立ち上げ、助け合い、橋渡しなどの活動を目指す
2009年2月	第7回市民自治創造・かわさきフォーラム	・ プロジェクトとして参加	プロジェクトの活動企画紹介
2009年9月	たまサロン	①長尾台コミュニティ交通導入推進協議会 ②こもれびの会 ③(特非)虹ヶ丘コミュニティ ④多摩川崖線緑地保全ネットワーク	今後の活動に役立てるため、様々なテーマで活躍している団体と意見交換

実施年月	タイトル等	講師等	概要
2010年2月	まちカツ！ 「今求められる『地域の 支え合い』」	・(財)さわやか福祉財団 ふれあい推進事業 プロジェクトリーダー 木原 勇	人間関係が希薄になってい く中で地域でいかに人と人 が支え合っていくかなどに ついての講演
2010年11月	他都市視察研修 港南台タウンカフェ	①(株)イータウン 代表取締役 齋藤 保 ②まちづくりフォーラム港南 岡野富茂子	活動場所の運営や他団体と の連携、仲間集めなどに ついて意見交換
2011年2月	たまサロン（まちカツ！ と同時開催） 区内の活動団体事例紹介	①長沢ひろば 原山修 ②のぼりとゆうえん隊 代表 野仲将生 ③岡さんの家TOMO 代表 小池良実	①空き家店舗対策、交流の場 ②まちの活性化 ③空き家の利活用（世代間交流） についての活動紹介
2012年10月	他都市視察研修 柏アーバンデザインセンター	・NPO支援センターちば 齊藤香代子	企業や大学と連携したまち づくりの取組の活動事例の 視察
2013年5月	たまサロン 「多世代がつながるまちに」	・グループワーク	こどもからシニアまで地域 で交流できる場づくりにつ いて意見交換
2013年9月	まちCafé 「安心して子育てできる まち多摩」	・多摩区を公園の拠点としたコミ ュニティづくり推進委員会事務局 多摩区役所企画課 澤野正憲 他	公園を使った地域の交流会 開催をきっかけとした公園 の活用について事例報告
2013年11月	他都市視察研修 ①トランジション藤野 ②藤野倶楽部 ③篠原の里	・(特非)篠原の里 代表 桑原敏勝 他	地域通貨「よろづ屋」が互助 活動を推進している事例の 報告 廃校の篠原小学校を利用し た、地域の活性化事業（子育て、コミュニケーションセン ターなど）の事例報告
2014年2月	まちカツ！ 「広げようみんなの力」	・(特非)ハンズオン！埼玉 代表 西川 正	父親の子育て参加、参加型ま ちづくりに関する講演
2014年6月	まち大学 「楽しくはじめる地域 カツドウのコツ」	・(特非)ハンズオン！埼玉 代表 西川 正	楽しくなる地域/市民活動に ついての講演、ワークショップ
2014年8月	まち大学 「40代からはじめる地域 活動のススメ」	・(特非)かわさき創造プロジェクト 代表理事 大下勝巳	地域とは、①職業人とは別の 自分が育つ場②「体験」「実 践」を通して学ぶ場③市民と しての意識が育つ場である ことなどについて講演
2014年11月	他都市視察研修 立川市大山自治会	・立川市大山自治会 会長 佐藤良子	3000世帯の自治会加入率 100%、孤独死ゼロ、住民によ るコミュニティづくりにつ いて視察
	他都市視察研修 くにたちはたけんぼ	・(特非)くにたち農園の会 理事長 小野 淳	農作業の他、ザリガニ釣り、 畑でバーベキューなど農を 介したコミュニティづくり について視察
2015年3月	まちCafé 「カフェde折り紙」	①おりづるの会 ②からふる！ ③ニヶ領せせらぎ館	折り紙を通して老若男女の 多世代交流

実施年月	タイトル等	講師等	概要
2015年6月	まちCafé 「大学×子ども」	①明治大学：多摩区子ども探求 クラブ・登戸探求プロジェクト ②日本女子大学：SAKU LABO ③専修大学：ネットワーク情報学部	地域社会と学生の交流
2016年10月	かまどで飯焚いて遊ぼう (ポレポレたま食堂)	・たまむすびプロジェクト	つくって食べて遊んで誰もが繋がる共生
2016年12月	まちCafé 「食を通じた地域のつながり」	①日本女子大学社会福祉学科 准教授 黒岩亮子 ②多摩区民生委員児童委員 上原 武 ③遊友ひろば寺子屋 田代美香 ④すげ寺子屋食堂福昌寺 飯沼康祐、矢車佑介	子どもの育ちに対して家族だけでなく地域、社会全体で支援が必要であること。こども食堂が多世代交流の場になりつつあることについての事例紹介とグループディスカッション
2017年2月	他都市視察研修 「国立の住民による大学・商店街と連携したまちづくりを学ぶ」	・(特非)くにたち富士見台人間環境キーステーション 内藤哲文	一橋大学と地域と商店街との連携による事業やモノづくり拠点、中間支援組織の視察
2017年6月	かまどで飯焚いて遊ぼう (ポレポレたま食堂)	・たまむすびプロジェクト	つくって食べて遊んで誰もが繋がる共生
2017年11月	まちCafé 「こんな助け合い活動を始めました」	①コミュニティカフェとて ②おでんせ中の島 ③ほっこりカフェ中野島 ④大谷自治会	子育て中の保護者や老若男女問わず地域で支えあい活動をしている実態を知る。互助活動に利用されている地域通貨「たま」についての報告等
2017年11月	他都市視察研修 さくら茶屋(横浜市)	・(特非)さくら茶屋にししば 理事長 岡本溢子 事務局長 阿部茂男	40年前に開拓され、高齢化率が40%以上。いつでもだれでも立ち寄れる場としての空き店舗活用について視察
2018年10月	全体研修会 分類された課題の一つ ・地域コミュニティに関して	・グループワーク	高齢化と共に災害時の助け合いのためにも、日頃顔見知りになっておく事が大切であること等について
2018年11月	他都市視察研修 村山団地中央商店街	・代表 比留間誠一	住民の高齢化(約50%)と共に衰退する団地と商店街。送迎自転車での買物支援について
	他都市視察研修 (特非)めじろむつみクラブ	・広報部長 佐藤正一	団地ができて50年。高齢化する住民への生活支援、文化・地域交流、地域交流事業支援についての視察
2018年11月	まちCafé 「身近なところに地域交流の場を作ろう！」	①(特非)アイゼン ②みた・まちもりカフェ ③菅町会	支え合いの和、子どもを支える環、いざという時、助けられる地域の輪を実践している団体からの事例報告・交流

実施年月	タイトル等	講師等	概要
2018年12月	まち大学 「健康づくりとコミュニティづくり」	・千葉大学予防医学センター 特任助教 辻 大士	健康寿命を延ばすために必要な地域コミュニティへの参加について
2019年3月	まちCafé 「身近なところに地域交流の場を作ろう！パートⅡ」	①山の手カフェ ②くりやカフェ ③地域カフェ立ち上げ準備中 (稲目町会、大谷自治会、大道自治会、根岸町会)	町内会・自治会で運営されている（これから開こうと計画している）地域コミュニティカフェの紹介
2019年11月	まち大学 「地域みまもり・支えあいとお互いさまの安心のまちづくり」	・共育ひろば主宰 牧岡英夫	ご近所づきあいが薄れる中、安心して暮らすための地域づくりを紹介
2019年12月	まちCafé 「色とりどりの・ツリーをつくろう」 Mijinの○△□ワークショップ	・多摩区まちづくり協議会 下重佳世	障害者・高齢者の支援施設が合同で開催の「ウェルネス2019」へ出展
2020年1月	まち大学 「空き家の現状・課題と利活用について～地域の資源として～」	①まちづくり局住宅整備推進課 担当係長 吉田研史 ②(一財)世田谷トラストまちづくり地域共生まちづくり課 課長 田中瑞穂	空き家の現状と課題、市としての取組 空き家・空き室の地域への活かし方

(4) 成果・効果

2、3年前から地域コミュニティカフェと言われる区民のたまり場が、多摩区内だけでも30ほどできている。中には認知症について相談日を設けている認知症カフェと言われるカフェもある。我々の12年に及ぶ地域コミュニティの大切さに関する活動が、少しずつ芽吹き、定着してきた様に思える。特に、2018年12月に千葉大学 辻特任助教を招いて開いた「多摩★まち大学」では、地域



で活動すればそれだけ健康寿命が伸びるという各地のデータをベースにした講演が、我々ボランティア活動に対する動機付けをいただいたようであった。2019年は、関東地方に2つの大型台風（15号、19号）が上陸した。その度に大きな被害が報道されている。19号では多摩川の増水等により、多摩区や中原区、高津区周で辺床上浸水の被害にあった。

こうした身近な自然災害に対してご近所同士顔見知りであるか否かは、互助活動に大きな影響を与える。特に、これから高齢化が進む中、ますますコミュニケーションの重要性が増してくると思われる。

4 環境・自然の保全

(1) 取り上げた背景・理由

区民の環境問題に対する意識を高めていくため、まずは区民一人ひとりが身近な生活においてできることを広く周知することの必要性を感じ、2008年まち協発足時、「家庭の『資源物』分別回収を広めよう」プロジェクトを立ち上げた。2012年7月には、第3期多摩区区民会議の区長への提言「区民の環境に対する意識向上など家庭でできる地球温暖化防止」を受け、環境問題に取り組んでいるメンバーを新たに委員・メンバーに加え「多摩エコスタイル」プロジェクトを発足させた。



また、多摩区の特徴として、多摩川や二ヶ領用水などの水辺環境にも恵まれ、梨園や農地が多く残っていることが挙げられ、さらに、首都圏でも有数の自然環境を残す生田緑地を有するなど、豊かな自然のあふれる区であり、これらの地域資源を活かした区の魅力を内外に知ってもらうため、「多摩区の観光資源・地産地消のマップづくり」プロジェクトを立ち上げた。

(2) 目的

環境保全について、「家庭の『資源物』分別回収を広めよう」プロジェクトでは、区民一人ひとりがごみと資源物を分別して出すことこそ、ごみの再資源化と減量を進める原動力と考え、広く周知することを目的とした。

また、「多摩エコスタイル」プロジェクトでは、「区民が主体となって、区民の環境に対する意識向上を図り、環境を考えたライフスタイルを広める活動を行うこと」を目的とし、大きく次の三つの柱で活動した。

- その1 区民祭など区内イベントで多数の区民を対象とした活動
- その2 自主企画としてエコショッピング・クッキングなど特定テーマによる活動
- その3 商店会と連携し※エコポイントカードなど商店街での区民に対するエコ普及活動

自然保全については、多摩区の大きな魅力である豊かな自然資源を広く周知していくことを目的とした。

※エコポイントカードとは…店が希望する「店のエコ」（買物時“レジ袋を使わない”など）に買物客の協力でポイントが付与され、20ポイント貯まれば100円の買物券として使える特典付きカード

(3) 活動実績

①環境取組実績

●「家庭の『資源物』分別回収を広めよう」プロジェクト

活動	取組内容	実施時期等
情報収集	行政等で発信されている資源物回収に関する様々な情報を収集した。また、町会・自治会の回収場所の現地調査実施	2008年度～2009年度中
分別啓発チラシ・ポスターの作成	情報収集した内容を基に、分かりやすいチラシ・ポスターを作成	
チラシの配布	イベント（市内統一美化運動、区民祭等）参加者や団体（地域福祉懇話会、シニアリーダー多摩の集い、ごみを考える市民連絡会、区廃棄物減量指導員連絡協議会等）に配布	
町会掲示板・集積所へのポスター掲示	登戸南町会南新町地区、登戸下河原町会、登戸台和町会台南支部の掲示板、ゴミ集積所にポスター掲示	2008年度～2009年度中

●「多摩エコスタイル」プロジェクト

その1「区内イベントで多数の区民を対象とした活動」

活動	取組内容	実施時期等
「1日1エコ運動（アンケート調査）」	毎日できるエコ活動を意識して継続すれば大きなエコ効果が出ることを知り、実践の習慣化を促進する	区民祭 2012年～2015年
「太陽光利用機器の実演」	ソーラー模型電車・ソーラークッカーで焼き芋づくりなど実演し、自然エネルギーのすごさを実感してもらう	区民祭 2013年～2016年 生田緑地サマーミュージアム 2015年～2016年
「商店街でのエコ調査結果報告」	2014年実施の「各商店が実施しているエコ活動調査結果」を報告	区民祭 2014年
「エコポイントカード広報活動」	買い物の際エコに心掛けることをエコポイントカードで知ってもらう	区民祭 2015年～2017年 民家園通り商店街夏祭り 2017年～2019年 たまたま子育てまつり2017年
「ごみ分別ゲーム」	ごみの正しい分別と分別後のリサイクル品を知ってもらう	生田緑地サマーミュージアム 2013年～2014年 多摩区エコロジーライフ事業 2015年 多摩区プレーパークをやっちゃおう会 2015年～2017年
「しゅろの葉でかごづくり」	身近な植物を利用し、ものをつくる	生田緑地サマーミュージアム 2015年～2017年
「牛乳パックでうちわづくり」	子ども対象に省エネ意識向上のため、飲み終わった牛乳パックでうちわをつくり自然の風をたのしむ	多摩区エコフェスタ 2013年～2018年
「大判エコかるた取りゲーム」	かるた取りでエコを学ぶ	民家園通り商店会夏祭り 2016年～2017年 たまたま子育てまつり2016年
「エコ紙芝居」	紙芝居でエコを学ぶ	民家園通り商店会夏祭り 2012年 多摩区プレーパークをやっちゃおう会 2015年～2017年

その2 「自主企画として特定テーマで活動」

活動	取組内容	実施時期等
まちCafé 「区内環境活動団体との交流」	区内環境活動団体との交流を実施	2012年9月
まち大学 「シェーナウの憩い」 上映会	「シェーナウの憩い」上映会とエネルギーを考えるワークショップを開催	2013年7月
まち大学 「エコショッピング・ クッキング」	旬の食材、地産食材（のらぼう菜、ゴーヤ）など環境負荷を意識した材料調達、省エネを意識した調理法、重曹を使った後片付けなど子供と大人と一緒にエコを重視した料理を学ぶ	2013年8月、2014年3月・8月、2015年2月・8月、2016年3月・8月、2017年3月・8月
まち大学 「ゴーヤの育て方講習会」	ゴーヤのカーテンで省エネ促進を学ぶ	2014年3月～2016年4月

その3 商店会と連携し、買物客など来街者対象に「商店街でのエコ活動」

2014年登戸東通り商店会・区役所通り登栄会商店街振興組合で加盟店のエコ活動実態調査を行い、区役所1階アトリウムで展示報告をした結果、区民も商店のエコ活動を応援する意向があることが分かり、「商店街でのエコ活動の取組」をスタートさせた。

同年11月に川崎市と東京都市大学との共同研究「ボトムアップ型まちづくり手法による低炭素商店街の実現手法の検討」に多摩区商店街連合会と上記2商店会とともに参画した。（参画を機に「登戸エコ会議」が発足し、2017年に「みんなで登戸・遊園をつくる会」に改編し、現在も毎月実施中）

この参画の結果、2015年6月から「エコポイントカードの運用」と「空き地エコ活動」が始まった。

2016年にはエコポイントカードが“地域ぐるみでエコを推進”として「第5回川崎市スマートライフスタイル大賞」優秀賞を、2018年には環境省・文部科学省後援の「低炭素杯2018」で優秀賞をそれぞれ受賞した。

活動アイテム	取組内容	実施時期等
1) 「商店街で買物客にエコ活動をうながすカード＝エコポイントカードの運用」		
エコポイントカード導入 商店会状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年6月登戸東通り商店会 ・同年10月区役所通り登栄会商店街振興組合が共通カードで運用開始 ・2018年4月民家園通り商店会並びに生田中央商店会で運用開始 	
2) 「商店街の空き地を活用したエコ活動」		
2015年6月からエコポイントカード運用開始に併せ登戸東通り商店街の毎月の売り出し日に空き地を利用しエコ啓発活動を開始		
「空き地エコ活動」	ごみ分別ゲーム、ソーラークッカーや木質ペレットを燃料とするストーブで沸かした飲み物や焼き芋・クッキーづくりなど実演しエコ啓発活動と併せてエコポイントカードの広報活動を実施	2015年6月～2016年7月 9回開催
「空き地エコ活動」は2016年9月から“のぼりとゆうえん隊”と連携し「登戸まちなか遊縁地」に発展		

活動アイテム	取組内容	実施時期等
「登戸まちなか遊縁地」活動	◎エコ啓発活動 ごみ分別ゲーム・環境紙芝居・ソーラー関連機器実演など	2016年9月～2019年11月 9回開催
	◎エコポイントカード広報活動 エコポイントカード参加店あてゲーム・ソーラー模型電車など参加の親に広報活動	
	◎発生ごみ抑制活動 ①リユース食器採用促進と当日の運用管理 ②来場者に“ごみ持ち帰り”を会場内看板・アナウンス等で促進 ③出店店舗に店で発生したごみは自店で回収を徹底 ④イベント終了後にスタッフで会場内ごみ拾いを実施	
3) 「その他の商店街でのエコ活動」		
・リユース食器使用促進活動	区役所通り登栄会商店街振興組合主催のハロウィン会場でリユース食器使用	2015年～2019年 5回
・商店街まちゼミで環境講座開設	区役所通り登栄会商店街振興組合主催まちゼミで「使わなくなった傘の布で傘袋づくり講座」開設	2015年～2020年 8回
・活動報告会（アトリウム展）開催	商店街でのエコ活動状況を区役所1階アトリウムで展示報告	2014年、2016年、2018年、2019年
・川崎国際環境技術展で展示報告	エコポイントカードなど商店街でのエコ活動を報告	2016年、2017年

②自然の取組に関する実績

実施年月	タイトル	講師・検討メンバー	概要
2008年9月 たまサロン	環境配慮・循環型の地域社会づくり	シニアリーダー多摩の集い、多摩区地域教育会議、多摩区地域女性連絡協議会などメンバーによる意見交換	・レジ袋の削減とエコバッグの普及 ・ごみ分別減量の推進 ・自然の美化をしっかりと維持していく等の課題を検討
	緑の保全と活用・地産地消・農の振興	日向山うるわし会、稲田郷土史会、多摩川崖線緑地保全ネットワーク、向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会	・地域に花壇づくり ・緑の保全の充実 ・農産物のマップづくり等の課題を検討
	地域資源・観光資源等まちの魅力の活用	たま文化財ボランティアの会、稲田郷土史会、多摩防犯協会、稲田多摩川観光協会他	・地域の観光資源の活用、安全でにぎわいのある観光ルートづくりなどの課題を検討
2009年9月 たまサロン	緑地の保全	こもれび会	ボランティア活動としての緑地保全のノウハウを学ぶ
2011年3月 プロジェクト	多摩農MAP（第1版）発行	プロジェクトメンバー	・各種イベントで配布 ・まち協ホームページに掲載

実施年月	タイトル	講師・検討メンバー	概要
2011年9月 たまサロン	観光の推進 (区内の観光資源を活かしたまちづくりの推進)	一般参加者、まち協委員・メンバー、行政職員による意見交換	生田緑地、多摩川など自然、岡本美術館など文化施設、梨や柿など農産物、歴史などを活用した観光ルートづくりを提案
	地域の環境(地域で取り組む身近な環境づくり)		身近な環境問題を地域活動として定着させるための課題を検討
2012年2月 プロジェクト	多摩農MAP(第2版)発行	プロジェクトメンバー	・各種イベントで配布 ・まち協ホームページに掲載
2012年10月 他都市視察研修	①オークビレッジ 柏の葉 ②環境コンビニ ステーション		身近な環境問題を地域活動として定着させるための取組視察
2019年3月 まちCafé	多摩エコスタイルプロジェクト発足と関係市民団体との交流	向山うるわし会、多摩川エコミュージアム、かわさきかえるプロジェクト、長尾台コミュニティ交通導入推進協議会、川崎フューチャーネットワーク	・各団体の活動報告 ・普段の生活の中で感じる環境に関する課題について意見交換
2013年11月 他都市視察研修	・トランジション 藤野		市民が自発的に暮らし方を変え、より持続的な社会に移行を実施している藤野地区を視察 ・太陽光発電とその利用 ・里山保存活動、自給率を上げる農 ・地域通貨導入など
2014年1月 他都市視察研修	・国立市市民農園 「はたけんぼ」		都市の中で農家、市民、市がコラボした農園でのコミュニティ活動
2015年5月 たまサロン	地域で広げるエコ活動	・グループワーク	関係団体(東京都市大学など)との連携、子ども対象の活動、活動結果の市民への告知活動など意見抽出
2018年3月 まちCafé	生田緑地をまるごと楽しもう	①生田緑地整備事務所 担当係長 矢口菊子 ②生田緑地運営共同体 額谷悠夏 ③向ヶ丘遊園の緑を守り、 市民いこいの場を求める会 事務局長 松岡嘉代子	参加者が生田緑地の魅力を知り、隠れた生田緑地の楽しみ方を再発見の試み

(4) 成果・効果

「家庭の『資源物』分別回収を広めよう」プロジェクトにおいて、委員・メンバーが居住している町会(地区)を中心にチラシの配布、ポスターの掲示等を行い、集積所の分別が進んだ感があった。

また、「多摩エコスタイル」プロジェクトでは、各メンバーが環境保全に対する強い思いから、あらゆる機会をとらえ“しつこく繰り返す”また“効果を高める工夫を絶えず凝らし”環境啓発活動を8年間実践してきた。この結果、来場者が40名程度だった「空き地エコイベント」が5,000名を超える「登戸まちなか遊緑地」に発展し、その会場で多くの来場者にエコ啓発活動を行った。会場では、リユース食器が5年間で2,720個使われ、ごみ発生抑制の効果が出るなどの成果がでている。また、“買物でレジ袋を使わない”、“食べ残しをしない”、“マイ箸を

使用する“などエコポイントカードを活用した商店街でのエコ活動に協力された方は、4 商店街で延べ3,000 名に達した。特に「買物の際に使わないレジ袋の枚数」が 37,000 枚（2020 年2月末現在）となり、このことは、プラスチック使用量削減のため、国がこれから始める「レジ袋有料化で使用枚数削減」に先駆けて実施し、成果を上げている。「多摩エコスタイル」プロジェクトは限られた人数で、環境問題に対する熱い思いで、地道に活動し、環境啓発活動を成し遂げることができた。



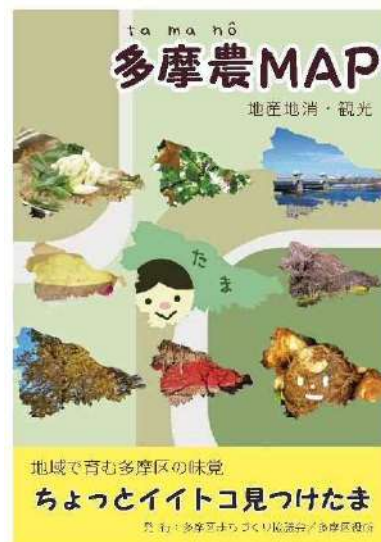
自然保全については、まち協委員・メンバーのみならず、自然保全関連団体と「たまサロン」を実施することにより、緑の保全等について充実した意見交換を行うことができたほか、他都市視察研修会を通じて、環境・自然保全に関する先進事例を学ぶことができた。

5 情報発信・マップづくり

(1) 取り上げた理由・背景

市民活動団体等において、広報はいつの時代においても難しいものであるが、まち協においては年 4 回程度広報紙を発行したほか、次のとおり3つのプロジェクトが情報発信のために立ち上がり、課題解決に努めた。

1つ目は、2008 年、多摩区の特徴である豊かな観光スポットや特産物、地場野菜の直販所などを取りまとめた記載物が少ない、もっとPRしていきたいという思いから、マップの作成・配布を通じて市民へ情報提供をするため、「多摩区の観光資源・地産地消のマップづくり」プロジェクトを立ち上げた。



2つ目に、同じく 2008 年、多摩区内の市民活動団体等が個別では活動しているものの、相互の情報交換・交流が少ないとの意見が聞かれたため、コミュニティ施設のマップ作成・配布、市民活動団体の交流の場の提供等を目指して、「まちづくりグループの情報交換・交流ネットワークづくり」プロジェクト（※後年、「まちづくりネットワーク応援隊」プロジェクトに改名）が立ち上がった。

さらに、2014 年、情報発信してもなかなか受け手に届かない、地域の活動に関する情報が不足している、区民が市民活動団体のイベントに参加するには区役所等公共施設まで行かなけ

れば情報を取得できないなどの意見が受けて、WEB上に市民活動団体の基本情報や団体の主催するイベント等掲載することを目指して、「マグネット多摩」プロジェクトが誕生した。

(2) 目的

多摩区の観光スポットや特産物、地場野菜の直販所などの情報について、他団体等と連携したイベント開催時にマップを配布するなどして広く周知し、地産地消等のPRを行う。また、コミュニティ施設の一覧表の作成や、他団体と連携したイベントの企画やまち協ホームページ内で団体情報やイベント情報の掲載を通じて、市民活動団体同士の相互交流や団体・区民への情報提供を積極的に行う。



(3) 活動実績

広報紙「私たちのまちづくり」

実施時期	タイトル	概要
2009年度 ～2020年度	多摩区まちづくり協議会 NEWS「私たちのまちづくり」 (※22号～67号)	前身の推進協議会から引き継ぐ形で発行。2011年度までは主にまち協実施事業の報告、予定等を掲載していたが、2012年度からはまち協報告の他、区内の市民活動団体情報、イベント情報、風景等を掲載

プロジェクト「多摩区の観光資源・地産地消のマップづくり」

実施時期	タイトル	概要
2011年3月	「多摩農MAP（第1版）」 発行	・各種イベントで配布 ・まち協ホームページへのデータアップ
2012年2月	「多摩農MAP（第2版）」 発行	・各種イベントで配布 ・まち協ホームページのデータ更新

プロジェクト「まちづくりネットワーク応援隊（まちづくりグループの情報交換・交流ネットワークづくり）」

実施時期	タイトル	概要
2009年7月	宮前区まちづくり協議会（ネットワーク化委員会）視察	ネットワークづくりを円滑に進めるため、先行事例を視察
2010年1月	お悩み解決勉強会	活動に役立つ会議の進め方を学んだり、プロジェクトが抱える悩みごとについてアイデアを出し合った
2010年10月	第1回出前たまサロン	川崎育ちの野菜を使い、一人暮らしでも簡単に作れるバランス良い料理を作り、食べて、話して交流
2010年中	地域の活動拠点の調査（33箇所）	コミュニティの交流促進や市民活動支援のため、区内の様々な拠点や施設を調査

実施時期	タイトル	概要
2011年2月	第2回出前たまサロン	スイーツづくりで交流を深め、多摩区を元気にするための方策についてワークショップを実施
2011年3月	多摩区コミュニティ施設MAP	コミュニティの交流促進や市民活動団体が使用できる施設等について、区民会議と当プロジェクトで調査を行い紹介

プロジェクト「マグネット多摩」～多摩区民と市民活動団体をつなぐ～チラシのネットギャラリー

実施時期	タイトル	概要
2014年8月	プロジェクトとして承認	チラシ掲載「登録団体利用規約」の策定、「団体登録申込書」の作成
2014年9月	団体向け説明会開催	市民活動団体11団体出席（10名）のもと、説明会を開催
2014年12月	チラシギャラリー公開、供用開始	まちづくり協議会のホームページ上にチラシギャラリー公開（27団体が利用登録済み）
2017年3月	プロジェクト終結（※利用団体：144団体）	マグネット多摩のサービスは一般社団法人「まぐたま」へ移行

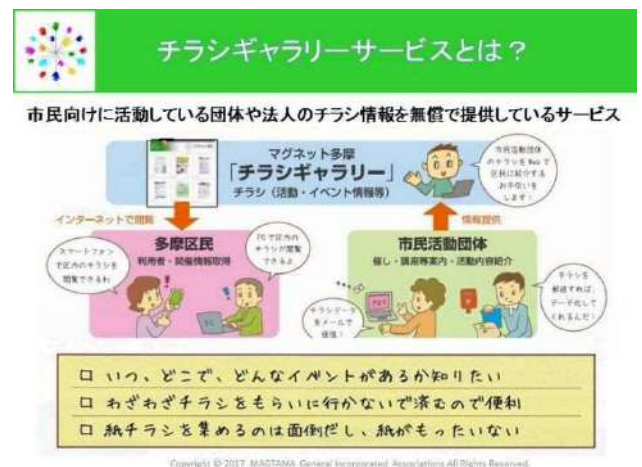
（４）成果・効果

「まち協の広報紙」は、2011年度までは主にまち協の事業報告、予定等を掲載していたが、中間支援的役割を担うという点で、2012年度からまち協以外の区内の市民活動団体やイベントの情報、四季折々の「多摩の風景」等を掲載し、より区民が手に取りやすい内容に変更した。また、メンバー自ら金融機関や駅等へ直接配架依頼するなど広報活動も積極的に行った。

「多摩農MAP」の作成に当たり、直販農家へ足を運んでアンケートを実施するなど、顔の見える関係づくりを努めた。また、協力農家や関係団体、小学校等へマップを配布するとともに、他団体の主催するイベントに積極的に参加し、地産地消のPR等広報を積極的に行った。結果、多くの方に多摩区の自然環境、農について周知することができた。

また、「まちづくりネットワーク応援隊」では、はじめに身近なまち協内のプロジェクト間のネットワーク化を進め、次に区内の市民活動拠点の実地調査を行い、「コミュニティ施設マップ」を作成し、市民活動団体が活動を行う際の参考とすることができた。他区のまちづくり協議会の視察やお悩み解決勉強会を通して、団体データベース作りよりも団体間の横のつながりづくりによる情報交換が必要とされていることが確認できた。

「マグネット多摩」の活動は、プロジェクトの認知度向上を図るため、区民祭、たまたま子育て祭り等のイベントに出展しPR活動を行い、十分な効果をもたらすには限界があると感じた



が、中間支援として市民活動団体の情報発信機会増大の一助になったと思われる。2017年、一般社団法人に移行、自立化し、多摩区内外の市民活動などの情報発信を積極的に行っている。

コラム

テーマ選びと活動に当たって

本多正典

- (1) 地域及び行政の関心のあるテーマ、課題も含めること
 - ①市の中短期行政計画を参考に課題を集める
 - ②区民の声を集めるイベントを開く⇒まち協ではたまサロンというイベントを開き、区民の声を聴きました
 - ③個別や地域に限定された課題を取り上げるのは避けた方がよい
- (2) 行政が市民に対して行っているサービスを調査しておくこと
 - ①活動が一人よがりにならないこと
 - ②関連するテーマがあるときは連携・協力？にするのもよい
- (3) イベントはオープンにし、誰をターゲットにするか。特に子育て中のお母さんの時は、開催時間は10時～12時がよさそうです
 - *保育サービスを付けることも考慮する
- (4) 参加者集めに工夫が必要です・・・チラシ作成、チラシの構成、配布場所の確保、地域広報紙(タウンニュース等)の活用は勿論ですが、参加してほしい方々には、チラシなどの手渡しが有効です
- (5) 中心になって活動する人たちへの教育が大切で、まち協では繰り返し実施しました
 - ①会議の進め方
 - ②ファシリテーターの役目
 - ③議事の取りまとめ方
 - ④ワークショップの進め方

第3章 多摩区まちづくり協議会での活動・思い出

1 歴代会長の思い出

多摩区まちづくり協議会活動を振り返って

2008年～2009年 初代会長 島岡 功

最初に、多摩区まちづくり協議会活動に関わった、全ての皆様の12年にわたる長期の真剣な取組に、敬意と感謝を申し上げたいと思います。

第一期は、新しい協議会のミッションをどう実現していくか、組織の構築に努めました。第一期の最初の取組は、協議会の新しい役割に設定された、中間支援機能拡充と、より広く市民参加でまちの課題を解決するプロジェクトを達成するための、推進組織づくりから開始しました。事務局やコンサルタントの方々と数ヶ月程の長い期間、委員会を重ね、激しい議論の末、簡素で分かりやすい現状の運営委員会組織が、やっと出来上がったことは、組織づくりの大切さなど、以降のボランティア活動への勉強にさせて戴いたと思っています。

視察研修は、第一次のまちづくり推進協議会活動から実施していましたが、2009年度のこの時期は、藤沢市のまちづくり視察研修を選定しました。藤沢市は、人口規模が多摩区とほぼ同じ程度であることが理由でした。藤沢市は、江の島や鵜沼海岸等、海の観光地や海水浴場、サーフィン場などの多くのレクリエーション資源を持っています。紹介された活動団体の江の島ルネッサンス推進会議は、まちの大きなテーマ、景観改善から活動を着手していました。まず、東海道線藤沢駅前の広告看板、休憩ベンチの配置、植木の位置や本数整理等から着手したことを説明されました。江の島ルネッサンス推進会議は、我がまちの資源をしっかりと認識し、まちの資源を生かす取組を真っ先に取り上げ、賢明な活動テーマ選択だと、感心したことが思い出されます。

プロジェクトテーマの決定は、企画提案書を運営委員会で審査し、総会で承認を求める手続きでしたが、総会で合格3件の承認を求めた際、不合格とされた提案者から苦情意見が出され、総会の混乱を起こしたことがありました。提案者の活動への真剣な思いを受け止めてられなかった、組織運用上の対応不備を思い出します。顧みれば、平成の時代から多様な分野において、市民参加の機運が始まった時期であり、行政と市民の信頼関係が増すごとに、段階を経て現在に至ったと思います。市民参加活動は、現在、社会学者が提唱する名目的参加から自立と協治への過程と考えられ、平成はパートナーシップを模索する時代であったと思われれます。

この度発行される「多摩区まちづくり協議会総括報告書」は、貴重な12年間の活動の集大成であり、今後の多摩区の市民活動の支援に、大いに供されるものと確信いたします。市民参加意識の高い皆様におかれましては、今後も市民活動の更なる発展に向けて、貢献されることをご期待申し上げます。

まち協の思い出

2009年～2016年 第2代会長 本多正典

私は40数年この多摩区に住んでいます。ずっとサラリーマンでした。今から15年ほど前に定年退職して、なにか地域で役立つことが出来ないかと思い、たまたま手にした市政だよりに掲載されていた多摩区まちづくり推進協議会の募集が目に入りました。これでもやってみようかと軽い気持ちで作文を書き応募したら幸か不幸か採用されました。そして文化教育部会に入部して、私のまち協でのボランティア活動が始まりました。それは2006年4月のことでした。2020年3月でまち協が終息しますが、この14年にわたる在席で、サラリーマンでは得られなかった色々なことを学び、多くの方との出会いがあり、沢山の思い出ができました。

2008年、まち協に大きな変革があり、名前も多摩区まちづくり協議会に変わりました。私はまち協の副会長になりました。その翌年2月に「第7回市民自治創造・かわさきフォーラム」が多摩区で開かれることになり、私はその実行委員会の委員長になりました。こんな大きなイベントの代表になることは初めての経験で、戸惑いと不安でいっぱいでした。しかし行政の方や関係者の惜しみない協力で無事終えたときの喜びは、一生の宝になるものでした。



2009年2月多摩区役所で開かれた「第7回市民自治創造・かわさきフォーラム」(前列中央阿部前市長)

前会長の突然の辞任で、会長に就き、3期6年務めました。

まち協の活動や、その魅力を区民の皆様方に知っていただくために、コンサルタントの千葉さんの知恵をお借りして「多摩★まち大学」、「多摩★まち Café」、「まちカツ！」などを実施しました。特に「まちカツ！」で、区内の活動団体による活動発表を取り入れたことは、中間支援的な活動の一つとして評価されるものでした。また、川崎市で策定された地域包括ケアシ

ステムをいち早く「多摩★まち大学」で取り上げ、日本女子大学の黒岩亮子先生他沢山の方のご協力で、2015年から2年に渡ってそれに関する講座を8回も開きました。これによってこのシステムの重要さと地域で取り組む大切さを少しでも理解していただけたのではと自負しています。更に2018年12月の「多摩★まち大学」で、千葉大学予防医学センターの辻 大士先生から、様々な社会参加が健康を保つ効果があるという事を学び、ボランティア活動の動機付けになりました。

まち協の活動をきっかけに自治会の会長をしたり、複数のボランティアに参加するなど毎日忙しくしています。以前「多摩★まち大学」で東京都健康長寿医療センター研究所の藤原佳典先生が、ボランティアを楽しむコツとして3つのK：感謝・寛容・感激が大切だと話されていました。これからもこの3つのKを忘れずボランティア活動を続けたいと思います。

まち協での活動・思い出

2016年～2020年 第3代会長 葛生 茂

定年を迎えて

サラリーマン時代は、ご多分に漏れず地域活動には関わりもなく過ごしていましたが、東日本大震災の年の6月に定年退職を迎えました。2011年10月から川崎市・専修大学共催の「KS ソーシャルビジネスアカデミー」を受講し、翌2012年3月に修了しました。

参加のきっかけ

まちづくり協議会への参加は2013年の「多摩★まち大学」体験型連続講座「孫に好かれるシニアになろう」3回シリーズ知る（座学）、観る（フィールドワーク）、考える（ワークショップ）に参加したのがきっかけでした。

第2回観る（フィールドワーク）で「NPO 法人ままとんきっず」さんをお訪ねし、シニアが地域の子ども、子育てを支援する市・こども未来局所管の「ふれあい子育てサポート事業」があることをお聞きし、9月の2日間講習会に参加・修了し、同事業のヘルパーとして登録し保育園児の送迎等をお手伝いしました。

まち協活動について

2014年4月、KS ソーシャルビジネスアカデミー修了生のまち協委員より子育て支援を行っている市民活動団体がイベント開催の告知チラシを区役所ロビー等の配架棚に置く余地がなく、情報発信に不都合との課題があるとのこと。

その課題解決のためチラシをインターネット上で閲覧できるWebサイト「チラシギャラリー」を構築したいので手伝いを依頼され、プロジェクト代表として同年8月「マグネット多摩」を立ち上げ、同年12月Webサイトを供用開始しました。

尚、プロジェクトは2017年3月末日をもって終結し、まち協を離れ「一般社団法人まぐたま」を発足し、プロジェクトと同様のサービスを提供しています。

また、2016年6月から2期6年間同協議会の会長を務め、今般の終了を迎えることとなりました。

活動を通じ、多摩区内外の多くの方々と知り合うことができ、また協議会のイベントである「多摩★まち大学」、「多摩★まち Café」、「他都市視察研修」等に参画し、まちづくりに関する課題解決について学ぶことができ、今後の地域での支援活動に活かしてまいります。

市民活動団体の皆さま、関係の行政の方々、多摩区町会連合会、観光協会、社会福祉協議会等公益団体の皆さまには大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

2 研修企画部

粕谷 充子

2016 年度から研修企画部長を仰せつかり、4年間部員の皆様と様々な企画を立てて来ました。産学公民と連携した学びの場である「多摩★まち大学」と面白い活動をしているゲスト団体を招き、カフェ感覚で団体のお話を聞き、交流を主とする「多摩★まち Café」の企画・立案について毎月の部会で話し合いました。年度と共に共通認識が増し、2018 年度には、「地域コミュニティの大切さを知ろう」というテーマを設け 2019 年度迄、このテーマに沿った企画を「支え合い部会」「子ども・子育て部会」に分けた専門部会で話し合いました。委員一人ひとりの発想の豊さと拘りを部会内で具現化していくその工程の素晴らしさがいずれの企画を取ってみても忘れられません。多くのゲスト団体の皆さま・事務局・コンサルにそして企画を共に練ってくださった委員の皆さまに感謝いたします。



3 広報編集部

加藤 寛理

僕個人としては、3 年間、広報編集部会に携わらせていただきました。

日々、国内や世界のニュースが多く入ってくる中、地元の情報も少し入ってくるものの、ネットワークの弱さから、噂レベルの信憑性しかなく、興味を持ちにくい面があるように感じていました。

広報編集部の活動は、委員のメンバーが知り得るまちの情報を寄せ集めて、分担して取材に行き、記事にして印刷するという工程で誌面を発行していましたが、取材という動機により、まちに対して深い興味を持てるきっかけをいただけたのは、非常にありがたかったなあと振り返ります。

僕が一番印象に残っているのは、東菅小学校の教育方針の飛び抜け具合を目の当たりにしたときでした。（第 63 号掲載）

取材先のお話はどれもおもしろく、このおもしろさをどうやって広く深く伝えていくかは、今後の課題になりますが、何らかの形で今後も携われたらいいなと考えています。



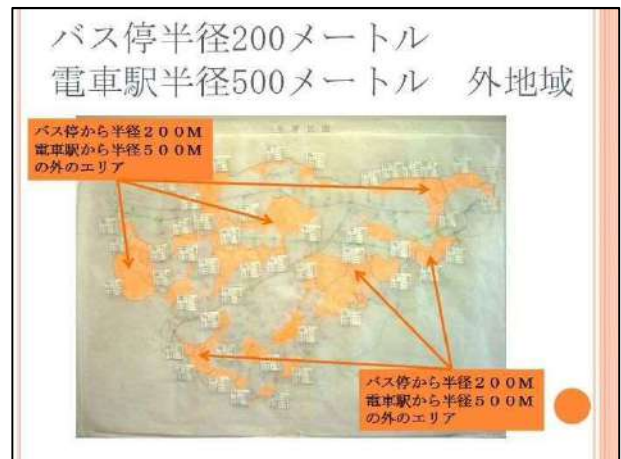
4 プロジェクト

■区民でつくろう、地域交通

多摩区は丘陵地帯が多く、住まいからバス停や駅までが遠い、坂道を歩くのが大変で外出するのに困る等、負担を感じている区民が多いことなどから、2009年、身近な地域の移動に関して、何が望まれているのか意見を出し合い、解決を目指すことを目的にプロジェクトを開始した。

具体的には、多摩区全体の交通問題や交通不便地域の洗い出しのほか、長尾台コミュニティ交通導入推進協議会との意見交換などを通じ、地域住民にとっての利便性、商店街活性化の視点から検討を進めていった。

まち協が主体となって、コミュニティバス運行に向けたプロジェクト継続は困難であったことから1期のみ活動となったが、地道な基礎調査により、交通過疎とする場所を科学的、定量的に示すことができたことが成果であった。



交通不便地域の洗い出しマップ

■花とみどりでまちづくり

身近にある管理が行き届いていない空き地等を花壇にすることで、緑地保全を推進することで、多摩区を花と緑でいっぱいにする 것을目指し、多摩区まちづくり推進協議会時代の2000年から活動を開始した。

道路脇の小さな空き地は、格好のゴミ捨て場になってしまう。そこで、そこを美しい花壇にすることで、無責任な行動を控えてもらうため、地元の維持管理グループの立ち上げ支援、運営協力を通じ、活動期間中の10年間で27箇所に花壇を整備することができた。現在も地域の皆さんにより管理され、楽しまれており、結果、ごみを捨てる人が着実に減ってきている。



また、多摩区内にどのような緑地があるのか調査を行い、緑地の地形、主要植物や廃棄物の状況など計22か所の緑地保全調査報告書を市へ提出するなど、緑地保全を推進した。

■多摩区の観光資源・地産地消のマップづくり

安陪修司

自然豊かで、身近で農業が営まれている。畑、梨畑の側まで住宅が迫っている。農地から宅地に急激に変わっている。そんな畑の片隅、農家の玄関脇に多数点在する農産物直売所、その販売台の上には採りたての新鮮な野菜をあれこれ選んでいる主婦の姿を見て、各地の直売所を回る地産地消のマップとした。これを自然豊かな多摩区のまちなかにある観光スポット、史跡自然の景色を加え皆様に、各地を散策して楽しんでいただきたいとの思いからプロジェクトをスタートした。

農産物に関する知識が薄い私たちが、すぐに調査、取材することは無理なため、専門家、セレサ川崎農業協同組合様に農産物直売所めぐりの趣旨説明に伺い、併せて農協から該当地区農家にマップに掲載の是非の確認と生産物、農作業に関するアンケート調査用紙の配布を快く引き受けて頂けたので、掲載許可の出た農家を中心に取材活動を入れた。それにあと一つ、プロジェクトメンバーが取材にあたり、どの組の人でも共通の質問ができるよう質問シートを用意することによりメンバーの取材方法を統一したことで記事の編集作業がスムーズに行われた。また、区内を9ブロックに分けどの地区でも掲載地があり広範囲を散策できるようにした。農家の訪問では、住宅と接する農地のため農作業には数々の規制もあり、鳥等の被害からの農作物を守る難しい作業内容を克服して農業が営まれていることを知った。

また、一方の自然豊かな観光地、史跡等を選び出し、解説を加え掲載の許可の出たところから取材を行い、手頃なガイドブックが出来上がった。



「多摩川梨のお菓子レシピ」なども紹介

■多摩の居場所ふらっと

(世代間の交流ができるコミュニティセンターをつくろう)

久野道子

「世代間の交流ができるコミュニティセンターを作ろう！」をテーマとした私たちは、赤ちゃんから高齢者までが、垣根なく交流できる場として、向ヶ丘遊園駅の大踏切近くに、カフェ「多摩の居場所ふらっと」を開設しました。散歩途中に立ち寄る人、抱っこ紐で赤ちゃんを抱いた若いパパさん、誰かと話すだけが良いという常連さんなど、毎月1回の開催を楽しみにしてくれました。スカイキッズやこども文化センターで幼児親子とクッキング、生田中学校の文化体験教室に出向き中学生とクッキングで交流しました。わくわくプラザやこども文化センター、民家園通り商店会夏祭り、多摩区民祭、緑化センター、登栄会商店街のハロウィン祭りなどで、子どもたちや大人と一緒に、ドラえもん折り紙を数え切れない位沢山折り、一大旋風を巻き起こしました。

誰でも参加の自然観察会では「カマキリとハリガネムシ」観察が印象に残りました。世代間交流の核の企画からチラシ作成・印刷、配布まで全てが自分たちの手作り。「多摩農MAP」の改訂版作成にも携わり、プロジェクトメンバー全員手分けして多摩区内の農家さんを周り、掲載内容の確認作業をしました。「多摩の居場所ふらっと」のノウハウ集『世代間の交流ができるコミュニティづくりのあゆみ(これから仲間作りを目指すあなたたちへ)』をプロジェクト終了時に作成しました。

こうして振り返ってみますと、実に多岐に渡る取り組みをし、さまざまな分野の方たちとの繋がりが出来、気の合う仲間も出来ました。

培ったノウハウを活かし、2014年から菅仙谷で「コミュニティカフェこんふお〜る」を運営しています。

解散後も、メンバーそれぞれが得意分野でボランティア活動し、時々情報交換で集まっています。



「多摩の居場所ふらっと」の活動風景

■家庭の「資源物」分別回収を広めよう

井上 清

多摩区まちづくり推進協議会（4期8年間）環境部会の「みんなでエコライフ」活動を継承するかたちで出来たプロジェクト（4人）です。（*川崎市は空き缶・ペットボトル・空きびん・使用済み乾電池を「資源物」と呼んでいました。）

ごみの発生もと（家庭）から分別による減量の意識を高めるために、老若男女に分かりやすく、市民に関心を持ってもらえるような分別回収の呼びかけや取組み方法を検討し、イベント等で宣伝・調査も実施しました。委員は生活環境事業所（職員と話し合い）・リサイクルセンター研修で実態の把握に努めました。市は資源物を集めて売却し財政に貢献しているので「資源化率のアップによる減量」を検討している等を学びながら、チラシ「ごみは資源だ～分別で地球温暖化を防ごう！～」ポスター等を作成し各町会、美化運動日・文化祭・区民祭等で配布・掲示などを行いました。協議会では会議の運営方法などを地域振興課・コンサル・委員の努力により改善されました。この頃から、パソコン・スマホ・タブレットなどを全員が使うようになり統計資料・



資源物分別チラシ

情報等も急速に得られるようになり、議事録ファイル等は机上から消え、講演はプロジェクターを駆使、ポスターはラミネート版を使用、連絡・資料はメール等を活用し意見交換・討議も良く出来るようになり、環境の部会は「多摩区エコスタイル」プロジェクトが熱心・優秀な委員が新たに加わり、活動する一つに「資源物分別回収」を促進しを頑張っています。感謝です。当協議会（6期 12 年）は活動は終えることは、残念ですが今後のまちづくり・市民活動に引き継がれ、参考にされることを（今は亡き2人と共に）期待しております。

■まちづくりネットワーク応援隊 （まちづくりグループの情報交換・交流ネットワークづくり）

区内のボランティアグループや市民活動団体のつながりを強化したいという思いから 2008 年に始まったプロジェクト。

市民活動団体の抱える課題把握のために「お悩み解決勉強会」の開催し、共通課題の調査をした結果、市民活動に共通している課題が「人集め」「資金集め」「活動する場所がない」であることから、市民活動団体が活用できる拠点を調査。多摩区区民会議と連携し、コミュニティの交流促進

や、市民活動団体の活動など様々な目的で利用できる、多摩区内の公共施設、民間施設あわせて 61 箇所の利用方法、アクセス等を掲載した「多摩区コミュニティ施設一覧」を作成した。

また、調査した拠点を使ってみた感覚を得るために、区民、市民活動団体、多摩区内の 3 大学と連携したイベントも実施し、ネットワークづくりを進めた。



多摩区内の市民活動拠点マップ

■多摩エコスタイル

石郷岡 純

地球が熱を出し世界の人々が困っている温暖化の現状を見て、2012 年 7 月に我々が出来ることに取り組もうという区民が 12 名集まり「多摩エコスタイルプロジェクト（エコスタ）」を立ちあげました。環境に一言持っている熱心な人たちでしたので企画書が出来るまで何回も会合を持ちました。

活動内容は「見える化」を心がけ、要約すると

- ・ 区民の環境に対する意識の向上

- ・エコ活動をしている団体とのネットワーク化

- ・ホームページと広報の活用化

でした。

また取り組みにあたって

- ・区民がどのようなエコを実践しているのか

- ・エコ活動をどのようにしてアピール出来るか

- ・どのようなイベントに関心があるのか

を考えて、まずは区内のいろいろなイベントに参加しました。

初めての活動は7月に行われた「民家園通り商店会夏祭り」に山下、三枝、井上の3氏が参加した「環境紙芝居」でスタート、10月開催の「区民祭」は1日1エコ運動を展開してどんなエコをしているか区民の皆さんとの会話を通して話し合いました。

その後、生田緑地で開催の「サマーミュージアム」「区民祭」は他の団体との協働で参加し、区役所で「多摩区エコフェスタ」、自主企画の「エコクッキング」「ゴーヤの育て方」等の講座を行い、参加者が集まるか心配しましたが関心のある方が多数受講してくれました。

特にエコクッキングでは食材に「ゴーヤ」を使用のため、お子さん向けに本多さんが考案した「ゴーヤジュース」が好評でした。この様にお子さんや家庭を通してのエコ活動の大切さを伝え、また教えられたことが最大の喜びでした。

立ち上げ時はパンフレットを作成し活動内容を広報したのも懐かしいです。

私は退任・退籍しましたが山下さん、本多さんが代表となり活動し、内容は同じで新たに2014年に商店街とお客様を通してのエコ活動を始めました。登戸東通り商店会と登栄会振興組合の協力を得てエコバック持参などのお客にエコポイントカードを渡し、ポイントがたまると買い物券として利用出来るシステムが軌道に乗り、活動の中心となりました。

現在4商店街53店舗で採用されています。また「登戸まちなか遊縁地」に参画し、区民の皆さんとの交流を図っています。エコスタの活動は区民と商店街の皆さんとの対話を通して活動できたことに感謝しています。



ここからスタート！

■マグネット多摩

岡本幹彦

「一般社団法人まぐたま」は、多摩区まちづくり協議会のプロジェクトの「マグネット多摩」を源流にしています。その「マグネット多摩」は、2014年にまちづくり協議会のプロジェクトとして、地域で活動している団体さんが、その活動を自分達自身で宣伝広告している範囲では拡がらず、もっといろいろな区民に向けて団体の情報を拡散するためにインターネットを活用し

たら良いのでは？との当時のまちづくり協議会のメンバーの方々が発案、企画、Web システムの構築を行ったと聞いております。

最初は、そもそも「マグネット多摩」を区民の皆さまに知って頂くための活動が主で、情報を提供する団体さんとその情報を知りたいであろう区民の皆さまに向けての宣伝が行われましたが、初めて見た方々は興味を示すもその後が続かず苦戦の連続だったようです。

私がプロジェクトに参加した2016年時点でも、月1回の区役所1Fのロビーで紹介展示会を行っても、知っている方は少なかったです。

その後、多摩区外の高津区、宮前区、麻生区はもとより、東京都の大田区、世田谷区、狛江市、府中市、稲城市と扱う情報エリアが広がりました。また、まち協プロジェクトから独立し、一般社団法人として新たなスタートを切り、専修大学キャリアデザインセンター主催の課題解決型インターンシップや多摩区外でのイベント等にも参加するようになりましたが、これらもまち協のプロジェクトとしての実績があったからこそと思っています。

この度、多摩区まちづくり協議会が解散することですが、関係者の皆さまのご尽力に感謝するとともに今後のますますのご健勝をお祈り致しております。



月1回、区役所1階アトリウムで実施した紹介展示会

■たまむすび～あそび場支援プラットフォーム～

稲田光世

《たまむすびプロジェクト～あそび場支援プラットフォーム～（現：市民団体たまむすび）》は、地域における子育て中の親の孤立や、つながりの希薄さ・子ども達が思いっきり外で遊ぶことを支える活動団体のマンパワー不足等の課題、さらに、独居老人や閉じこもりシニア等の高齢者等の課題について、多摩区内での課題の調査・把握を行い、《混ぜこぜ活動》によって課題解決を図るべく、2014～2017年度まで多摩区まちづくり協議会のプロジェクトとして活動しました。



やきいも交流会に参加した団体の紙芝居の様子

活動の主軸を「食べること」と「遊ぶこと」に置き、「おもしろたまむすびイベント（中間支援的活動・多世代交流）」などを実施し、シニアの地域デビューの手助けや遊び場支援活動団体

が、異種団体やボランティアな様々な個人と知り合いつながりを強め、【あそび場支援プラットフォーム（ネットワーク）】の構築につながりました。

実際の活動では、このプロジェクト自体が多世代のメンバーで構成されていた為、それぞれの意見をまとめ進めていくことは非常に困難を呈しました。相容れない意見をどのように理解し、妥協点を見つけていくかという難しさに対し、コンサルティングを担って頂いた石塚計画デザイン事務所の皆さんのお力添えは大変ありがたかったです！

ほとんどの子育て世帯が核家族という川崎市において、地域に埋もれていると思われるシニアの皆様の持つ宝（長年蓄積された技術や知識や体力）を、今後も、地域の子どもや子育て中の親達を支える活動へ有効に使い支えて頂けたらと切に思います。

コラム

■まちカツ活動団体のプレゼンテーションから見てきた地域課題解決の鍵！

辻野勝行

私は通算 6 年間のまちづくり協議会活動の中で、2 月になると、多摩区内で活動する区民活動団体皆さんのたった 3 分間に満たないプレゼンテーションですが、その 3 分間の中に凝縮された皆さんの一途な熱い想いのプレゼンを見、聴くたびに心に強く響き感動を覚えました。天台宗の開祖、最澄の「一隅を照らす者、これは国の宝なり」と云う言葉が思い出され、まさにこのような活動こそが国の宝、多摩区の宝と確信した瞬間でした。この 6 年間に亘るまちカツ！のプレゼンテーションから見てきた活動団体の皆さんに一貫している地域課題解決の共通点、先ずその活動の原点は、自ら率先するジリキノミクス（DIY）、地道な自助努力にあること、次に地元資源（ヒト、モノ、カネ、歴史、文化）の活用、第 3 点は地域のニーズの把握とその地域特性を生かしたオリジナリティ、第 4 点はつながりで人が人を呼ぶ好循環が生まれ活動を愉しむ、第 5 点はつながりに幸福感が共感され「つなぐ」「支える」「対話」が実践されていることであると感じました。

プレゼンから得たこの「解」の流れの拡がりこそが地域課題解決、人と人との関わりを解決する要諦、ヒントと確信し新しく吹く風を実感しての 6 年間の総決算となりました。改めて感謝！です。

第4章 多摩区まちづくり協議会との関わり・思い出

まち協では、地域の課題抽出・解決と市民活動支援（中間支援的機能）を柱に活動を行っており、市民活動支援事業の中でも大きな事業が「まちカツ！（まちづくり活動発表会）」である。毎年25前後の団体が参加、活動を発表し、交流を行ってきた。これまで延べ212団体が参加し、身近な地域で活動する団体を知り、地域の人と人が交流し、つながり、活動の輪を広げることができた。

本章では、「まちカツ！」に参加している団体を中心に、まち協と交流がある区内の市民活動団体に、まち協との関わり・思い出を寄せていただいた。

■稲田郷土史会

平林 勤

まち協とのつながりは「多摩区まちづくり推進協議会」の頃、文化・教育部会の依頼で「郷土ふるさとたま」の歴史や史跡の説明・案内、史料や写真の提供を依頼されてからのお付き合いになります。その後もガイド養成講座の講師を務めたりして深いお付き合いをしてきました。

最近の活動では、「多摩区総合防災訓練」（2019年9月に下布田小学校、11月に東生田小学校で開催）に参加。地域の災害の記録を写真や地図パネルで紹介し、郷土の歴史の普及に合わせて市民の防災意識向上に貢献しています。

「まちカツ！」では、多摩区の歴史発見、再発掘などの活動実績を紹介、郷土に一層の関心を深めていただく展示パネルを作成し、冷や汗をかきながらのポスターセッションでも好評をいただきました。



「災害の歴史 写真展」（2019年11月、東生田小学校での多摩区総合防災訓練に参加）

■インターネット川崎ガイド

遠藤素子・藤田道夫

川崎市7区全域・各分野から発信される多数のホームページをさまざまな形で分類・整理、写真・地図と結びつけ、見やすく判りやすくご紹介、併せて、川崎市内全域の四季の写真約10,000点をサイト上で、1,000点余をGoogle地図上で公開、日常生活、市民活動、教育学習、観光散策などの資料としてみなさまに自由にお使いいただいています。この間、まちづくり協議会からのお誘いがあり、「多摩農マップ」作成、広報誌編集、「多摩区見どころガイド」リンク、また、観光協会設立記念切手発行・写真展示への参加、多摩区観光ガイドブック「はなもす」への写真提供など、多数の市民団体、協議会、区役所の方々のご親切な、ご指導、ご支援、ご理解をいただきながら、「少しでもお役にたてば」とお手伝いしてまいりました。みなさまに厚く御礼を申し上げます。



ハンディ川崎ガイド（多摩区）

■公益財団法人 かわさき市民活動センター

岡本幹彦

(公財)かわさき市民活動センターでは、中間支援組織として「情報発信」「人材育成」「場の提供」「交流・連携」「助成金」「相談」の6つのチカラで活動されている団体を支援しております。

毎年参加いたしました「まちカツ！」ポスター展では、参加団体がそれぞれの活動内容を発表されて、多摩区内での市民活動の状況がよく伝わって来ました。



2019年度「ごえん楽市」

また、「まちカツ！」で当センターの紹介の場を頂き、「かわさき市民公益活動助成金」や「川崎市民活動(ボランティア活動)補償制度」等の相談に繋げることが出来ました。

この度、多摩区まちづくり協議会がその活動を終わられるとお聞きしまして、これまでのご対応に感謝すると共に、関係者の皆さまのますますのご健勝をお祈りいたします。

■公益財団法人 かわさき市民しきん

廣岡希美

かわさき市民しきんは、市民の方からの寄付を通じて地域の課題解決を行う活動を応援し、川崎を誰もが暮らしやすいまちにすることを目的に活動を行っています。2015年に設立の際にも、一般の市民の皆さんから500万円を超える寄付をいただき、2018年公益財団法人になることができました。



川崎プロボノ部2019のキックオフミーティングにて

「まちカツ！」には、設立準備会の中から参加させていただいて、ポスターセッション×交流タイムではいろんな方たちとの出会いがありました。

多摩区のまちづくり協議会はメンバーの皆さんが協力していつも素晴らしい会を開催されていて、今年度が最後とは残念です。

ですが、多摩区の地域の活動はこれからもさらに発展していくことと思います。私も多摩区民として、これからも一緒に活動していければ、と思います！

■かわさきの安全でおいしい水道水を守る会

町井弘明

かわさきの安全でおいしい水道水を守る会は、ポスターセッションで多摩区の皆さんに自給水源生田浄水場が大切かを訴えてきました。こういった行事を開いていただいた協議会の皆さんに感謝です。



毎年開いている水に関する川柳大会（稲田公園）

多くの市民の共感を得て、10年間運動を続けてきました。153万川崎市民に長沢1か所しか浄水場が無いこと、市民の半分の水道水を供給する企業団の送水は地震やポンプ故障で止まったり、ろ過池の堰が倒壊し、西長沢浄水場の機能が減少したことなどで不安定な状況です。

また小田原の酒匂川の最下流から水を取水しているので、この飯泉取水所の施設は大雨で2mも浸水し、送水がストップします。停電するとポンプが使えないので送水できません。直径3mと巨大な導水管で送るためポンプの容量は東洋一6,500kwと大きいので自家発電できません。

3万人を超える署名で井戸は残り有効活用されます。1日15万トンの水は153万市民に1日一人100リットルもあるのです。

いざというとき、浄水場は復活できます。今後とも皆さんの協力を受けながら、夏冷たい冬温かい美味しい水道水供給を実現するまで頑張ります。

■NPO 法人 川崎フューチャー・ネットワーク

三枝信子

川崎フューチャー・ネットワークは「市民の力で川崎を“環境都市”に！」をスローガンに、環境とまちづくりの活動を行っています。多摩区では『知っているようで知らなかった川崎・多摩を知る「川崎再発見」講座』や『公害映画上映会』のほか、マイ傘袋づくり講座や大気汚染調査（NO2測定）などで多摩区の商店会にもご協力をいただいています。交通量が多いところと少ないところ、坂の上と下ではどんな違いが出るのかなど、比較しながら継続的に大気を調査しています。まちカツでは、そういった活動を紹介させていただき、他の団体とも交流させていただきました。せっかくなので、何かコラボレーションに繋がれば良かったなあ、と思います。これからでも何かご一緒できることがあると良いな、と思っています。



川崎再発見講座で生田緑地を訪問

■NPO 法人 ぐらす・かわさき

池上紅実

NPO法人ぐらす・かわさきは、2001年に多摩区登戸で設立されました。2004年には、地域の皆さんの「やってみたいこと」「気になること」を持ち寄る「地域の縁側」として、多摩区役所の近くに「遊友ひろば」を、2012年には中原区に「メサ・グランデ」を開設。現在もこの2つのコミュニティスペースを自転車操業しながら、民間の中間支援組織としてできることを考え続けています。

多摩区まちづくり協議会の「まちカツ！」は、地域で活動されている様々な市民活動団体の皆さんが年に一度、一堂に会する貴重な機会です。毎年



「放課後ひろば（寺子屋）」で夕食を食べる子どもたち

楽しみに参加し、いつも元気をいただけてきました。まちづくり協議会の果たしてきた役割が多摩区ソーシャルデザインセンターに引き継がれ、より魅力的な活動が展開されることを期待しています。

■多摩区地域教育会議

高森康広

多摩区地域教育会議は、1980年代に荒れていた中学校を立て直すべく、ある不幸な事件をきっかけに川崎市の全中学校区と行政区に設置された団体です。

子ども達の成長していく環境を、地域と学校が手を取り合って作り上げていく話し合いの場として活動しております。

まちづくり協議会で毎年2月に開催される「まちカツ！」には毎年参加し、地域の様々なまちづくりについて学び、他の団体と交流の機会を得ることができました。また、「たまサロン」や「多摩まち★Café」にも何回か参加させていただき、多摩区地域教育会議の立場から区の課題について参加団体の皆さんと広く議論する機会を得ることができ、有意義な意見交換ができました。



教育を語るつどい

■多摩区でプレーパークをやっちゃおう会

稲田光世

2004年から15年間続けてきた《子ども達の外遊びを保障する活動（プレーパーク活動）》は、同じ子育て中の親達だからこそそのパワーや思いがあり続けてきました。しかし、メンバーの子ども達の成長・ライフステージの変化等により、少しずつ活動に関わる時間や人手に不足が生じてきました。

子育て世代以外の方々と課題解決の道を探り始めてきた時に、多摩区まちづくり協議会へのお誘いを頂きました。人生の諸先輩方との活動によって、貴重なご助言を頂いたり一緒に活動



まちづくり協議会と協働で行った『まちの縁日であそぼう！つながろう！』

する仲間やつながりを得られた事は大きな収穫でした。まちカツ！では、2年連続で表彰して頂き大きな励みになりました！

■多摩区認知症カフェ・地域カフェ交流連絡会

町田浩子

「たくさん話せて楽しかったよ」「専門家に相談できて助かったわ」お客さんのそんな言葉や笑顔を励みに、気軽に集えて困りごとにも話せる「地域カフェ」、専門家もいて相談しやすい「認知症カフェ」が開催されています。けれども、ボランティア精神だけでは、集客や資金などの悩みを解決するのも難しいです。私たちは、個々のカフェが協力して運営の知恵・ノウハウを共有し、活動を継続するために発足しました。2017年秋の発足以来、多摩区内のこのようなカフェも約30に増えました。カフェマップをお手に取り、どうぞ、お近くのカフェを覗いてみてください。マップは、区役所、地域包括支援センターなどにあります。



高橋正彦医師（認知症専門）による講演（2017年交流連絡会）

「まちカツ！」や「まちCafé」などは、他団体との情報交換の場としてとても勉強になりました。地域の課題抽出や中間支援は現場を知らねばならず大変だったことでしょう。まち協の蓄積はSDCに大いに生かされると思います。ありがとうございました。

■地域通貨たま運営委員会

地域通貨たま運営委員／大澤洋子

「地域通貨」とは国ではなく、地域の機関（自治体・市民の構成による委員会）や市民団体などが発行し、一定の地域やコミュニティで流通する通貨です。「地域通貨たま」は2007年に始まりましたが、10年以上続いている地域通貨は全国的にも珍しい存在だそうです。地域の中の助け合いのツールとして登戸の「遊友ひろば」や大谷自治会などをはじめ、多摩区内で活用されています。地域通貨たまを使って楽しむ「100%たま楽市」では多くの人が集まって、新しいつながりや交流が生まれています。



たま楽市の様子

「まちカツ！」でも毎年ポスターの展示に参加して、他の市民団体とも交流を深めてきました。多摩区ソーシャルデザインセンターの開設など、川崎の市民活動が大きな節目を迎えていると感じます。「地域通貨たま」も時代に沿って活動の見直しをしながら、続けていこうと思います。

■チーム・たま

井上ふみ子

「チーム・たま」は、多摩区で活動している医師会、歯科医師会、地域包括支援センター、介護支援専門員連絡会等の医療・介護・福祉関連の団体と行政がネットワークを構築し、多摩区の皆さんが、住み慣れた地域で、生活を継続できるように活動している団体です。主な活動は、市民公開講座および多職種での研修の開催です。当団体は、2015年から「まちカツ！」のポスターセッションで活動をアピールさせていただきました。発表後に参加者から、「市民公開講座を聞いたかった」「多職種が連携をとってくれると安心」等の言葉をかけていただき、とても励みになりました。また、他の団体の皆さんの、明るくユーモアたっぷりの発表を聞いて、様々な活動を知るとともに元気をもらうことができました。



第8回チーム・たま公開講座で集合したチーム・たまで活動する多団体スタッフ

■長尾台コミュニティバス利用者協議会

児井正臣

当会は2008年9月に前身の長尾台コミュニティ交通導入推進協議会として発足、コミュニティバス運行が実現し2015年4月より現在の名称及び体制になりました。発足当初、導入に向けての何らかの支援が受けられるのではないかと期待でまち協に加入したのですが、コミュニティ交通に関する知見や先行事例などがなく、その面からの支援を受けることはありませんでした。しかし、住民ボランティアによる継続的活動の進め方という面では、他の団体活動を見て参考にさせていただいたこともあり、また我々の活動を広く紹介する機会が与えられたと思っています。特にまちカツでは他団体との交流を深め、ポスターセッションではベストプレゼンたま賞を2度も受賞することで多くの区民



2018年2月11日、まちカツ！ポスターセッションで発表する協議会メンバーとサポーター

にコミュニティバス「あじさい号」を知っていただけただのではないかと考えています。そのようなことから、まちづくり協議会には感謝しています。

■登戸研究所保存の会

森田忠正

まちづくり協議会に支えられて、戦争遺跡保存と活用の活動が発展してきました。今では陸軍登戸研究所の遺構群が、2018年11月に川崎市地域文化財に指定されました。2008年11月にシンポジウム「緑と歴史遺産を活かしたまちづくり（生田緑地・登戸研究所など）」にまち協代表がパネリストとして参加していただいたり、2014年2月11日のポスターセッションで、「第1回ベストプレゼンたま賞」に選ばれことなどで登戸研究所の大切さが伝わってきました。



市立中学校での朗読劇

3冊の本と絵本の発行し、朗読劇の上演で市民や子供たちに伝える活動や、中学校への出前授業も好評を得ながら活動しています。

■「福島の子どもたちとともに」川崎市民の会

高橋真知子

「福島の子どもたちに思いっきり外遊びを！」

2011年3月、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故により、「放射線量が高く外遊びができない、プールにも入れない」という子どもたちを、川崎市内で思う存分遊ばせてやりたいとの思いで同年6月に設立しました。

当初は福島県内の小学生30人が、3～7泊、川崎市民プラザ（高津区）や川崎市青少年の家（宮前区）に宿泊し、川崎市子ども夢パーク（高津区）、生田緑地（多摩区）などを「天ぷらバス」（かわさきかえるプロジェクト）で回り外遊びを楽しみました。その後、乳幼児を含む親子40人を年1～2回、3～4泊招待する制度に改編し今日に至っています。



遊ぼうパンづくりを楽しむ福島の親子と川崎のボランティア（川崎市子ども夢パーク）

これまでに総計23回、900人以上の親子が参加しています。「まちカツ！」ポスター展やポスターセッションでは、多摩区内の地域課題に取り組む団体の多い中、「異色」の当団体にも温かく応援いただき、広く理解や協力を得る良い機会となりました。

■向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会

松岡嘉代子

多摩区まちづくり協議会の皆さん、長い間お疲れ様でした。

「まちカツ！」は多摩区のたくさんある市民団体をつなぐ大きな役割を果たされた取り組みでした。

私共の会は「まちカツ！」「まちCafé」などに参加させて頂き、たくさんの市民や市民団体の方々と交流できました。

その時々に向ヶ丘遊園跡地の現状を報告させて頂き、ご参加の皆様にご理解を得ることができ、大変有難かったです。

特に2019年に向ヶ丘遊園跡地の最終的な計画：ほぼ全域の緑が守られ、市民いこいの場であるキャンプ場・温浴施設・商業施設などの計画が発表された時には大きな拍手も頂き、ポスターセッションで2度目の入選をさせて頂いたことは記憶に新しいところです。

今後は装い新たに、更なるご発展を祈念しております。



皆様方のお陰で、市民の願いが実現します。

矢野 久喜

少しでも地元のお役に立ちたいという思いで、過去に多摩区社会福祉協議会や区民会議の委員を務めました。その集まりの際に配布されていたのが広報紙「私たちのまちづくり」で、まち協という組織があることを知りました。

2016年春、委員になり、各種委員会、プロジェクト、活動を覗いてみました。そこでは委員、メンバー、ボランティアという様々な立場でたくさんの方がまち協の活動に参加していることでした。それらの方々はまち協以外でも実にいろいろな場でご自分の思いを実現しようと活動されていて、刺激を受けるとともに面識を頂けることを有難く感じました。まち協の活動やそれ以外で分からないこと、困ったことがあったときに知り合った方々にお聞きし知識、知恵を頂くことが沢山ありました。また、新たな活動を一緒にしないかとお声を掛けていただくこともありました。結局まち協に参加して、自分が地元のお役に立つというより私にとっての貴重な財産を頂いたことになりました。有難うございました。

第5章 委員から一言

第6期まち協委員から、まち協の思い出を寄せました。

小澤章子

まちづくり協議会委員の一人として、短い期間を振り返りますと、子育ては見守るのみ、趣味の生活と少しのボランティア活動が一変、サークル活動を通しての始動、多くの人のご始動・ご協力のもと、区民として課題に少しずつ触れ参加できたこと、また、人や地域とのつながりが何と美徳なことかと実感し、十分に満喫しました。今後の生活に生かせるよう努力していきます。

粕谷充子

川崎都民だった私が、地域活動に関わったきっかけは「多摩の居場所ふらっと」の多世代交流プロジェクトでした。その中で、多摩区の市民活動団体や施設を運営している方とも知り合いになりました。又、まち大学の講座を通して知り合った団体に入会し、地域の中で活動する事の楽しさを知りました。私にとって、まち協はたくさんの人との繋がり原点です。

加藤寛理

まちづくりの難しい点の1つは、時代の流れや住む人によってニーズが刻一刻と変わり、施策や活動にも賞味期限があるということだと思います。そんな中、多摩区まちづくり協議会の一番の功績は、前身団体も含めて20年の長きに渡って、自発的に集まったメンバーによって運営されていたことだと考えます。コミュニティ施策の基本中の基本であり、それを20年も続けて来たことは素晴らしいことだと思います。

倉田 宏

地域社会の諸課題解決に寄与したいとの希望を持って、2期四年間参加した。熱心な仲間達と活動する中で、地域のネットワークは広がった。しかし、デジタル技術の広がりとともに、コミュニティーの広域化・多様化が進み、地域に密着したコミュニティーが風化するのではないかという危惧も感じるようになった。これからも、人と人とのつながりが希薄にならないよう留意したい。

黒川保之（南菅中学校校長）

区中学校校長会の担当として平成 31 年 4 月から参加させていただきました。中学校社会科は地理的分野で地域調査の手法を学びます。また公民的分野で地域社会における住民の福祉は住民参加によってなされていくものであり、その重要性を考えさせます。5 月に初めて協議会総会に参加して運営委員会や各部会の活動を聞かせていただき、住民参加の重要性を再認識しました。

児井正臣

まち協とは、区民生活の利便性や安全性を高めるためのインフラを整備するところかと思って参加しました。それは期待はずれでしたし、自らそのように変えられなかったことに忸怩たる思いがあります。中間支援ということの意味も最後まで理解できず暗中模索のまま終わってしまいましたが、ボランティア活動をする皆さんの献身的な姿に魅せられました。

小林勝弘（東生田小学校校長）

今年度総会だけの参加でしたが、まちづくり協議会の意義を十分に感じ取ることができました。来年度 4 月より小学校では、新学習指導要領が全面実施となり、例えば、3 年の社会科では、「市のうつりかわり」という単元を通して、市が発展していく様子を学習します。今後、ソーシャルデザインセンターは地域の学習材として取り上げられることは間違いないでしょう。大いに期待したいと思います。

近藤佳長

定期的に充実した学びの場を提供できたのは、大変良かったと思います。中間支援に関しては、市民団体の支援と言うよりも区民の課題やニーズにフォーカスすることが多かった印象です。関係性が乏しかったのもあり、市民団体の課題やニーズを吸い上げられなかったのも事実だと思います。（マンパワー不足）

三枝信子

多摩区まちづくり協議会には、区民にエコなライフスタイルを拓げていく多摩エコスタイルプロジェクトを立ち上げての参加でした。温暖化対策としての緑のカーテン、そのゴーヤや地元野菜のらぼう菜でのエコなクッキングのほか、地元商店会とも一緒させていただきました。リユース食器の活用も、エコポイントカードも、商店会のご協力なしにはなし得ませんでした。まち協は終わってしまいましたが、環境課題の解決に向けて、今後も市民活動は続くと思います。

高森康広

今年から参加者の一人として入れて頂きましたが、平日の会議の時間には仕事を休むことができず、また、土日の活動では率いている少年野球チームの活動と重なり出席できませんでした。住民の目線で課題を話し合う等有意義な活動だと思っておりますので、力になれず申し訳ない気持ちです。

辻野勝行

私はまちづくり協議会3期、4期そして6期通算6年間、目からウロコの学びとつながりに感謝です。まち協のイベント、まちカツやまち大学そしてまち Café を通しての多くの講師・区民活動団体・多摩区民の皆さんとの出会いが一期一会の出会いとなり出会いの一波が万波を呼び、顔の見える関係「絆」、「縁」ができたことこそ人生の宝ものです。そしてもう一つは活動を愉しむ、共感しつながりに幸福感が醸成されることがまちづくり課題解決の鍵!と気付かされた学び、学ばされた6年間、区民参加の協働型地域社会のデザインとその実現、その「夢」を「形」に！を願って活動を支えてくれた仲間そして事務局として支えてくれた地域振興課のみなさんに心から感謝です。

野村高寿

多くの出会いがありました。私がリーダーとして関わったまち Café で、鉢巻をして小田急側と団交を重ねてきたイメージを持ってお会いした遊園の会（省略）の松岡さんは、江戸っ子の私には下町の世話好きのお母さんに見えました。その瞬間、彼女の掲げる理念を直観したと思う。中間支援的活動では、人に会うことが大事だと痛感しました。

本多武夫

まち協には多摩区町会連合会からの推薦という形で参加させていただきました。まち協では、ワークショップに参加して、区内の様々な分野の方々と意見交換を行い、とても参考になりました。また、地域包括ケアシステムをテーマにした多摩★まち大学では、かりがね台自治会の取り組みについて講演させていただき、良い経験となりました。

牧野洋久

最後の2年間に、公募委員としてエコスタイルプロジェクトに参加させていただきました。商店街の方々も含め、いろいろな方と一緒にする良い機会になりました。多摩区は、利便性と緑

が両立されていて本当に住み良い所だと思います。地域の方や行政、商業関係者、学生さんなどが今後つながりながら、より良い街になっていくことを期待しています。

矢島泰弘

まちづくり協議会委員として、他都市への研修やサークル団体の活動をいろいろと研修させていただきました。この会で活動したことで、一市民では考えることもないことを教わり大変貴重な体験をしました。まちづくりを一市民として、考えるキッカケに出会い、何をすべきか、何をしたら善いか、住民の誇れるまちづくりができれば、それが一番のまちづくりではないでしょうか。

安井 浩

私の人生に新たな彩を添えた6年間でした。感謝・寛容・感激の大切さと、活動を続けるために自ら楽しみを見つけることを学び、特に“エコポイントカード”は立ち上げから関わり「命を懸けて取り組む」と宣言し仲間に笑われましたが、その甲斐もあって貴重な成果を得ました。もっと、若い時から市民活動に取り組めばよかったと後悔しています。

矢野久喜

地元が好き、もっといい街にしたいという思いを持った方が集まる場は、その町にとって貴重な存在です。集ったメンバーで現状の認識、こうあったらいいね、ということ語り合い、そのために何ができるか、その中で出来ることに手を付ける、行動する場は街にとって必須の存在だと思います。まち協はこの役割を果たす大事な場、存在でした。

山下博子

私は8年間、多摩エコスタイルで活動してきました。環境活動にも様々なテーマがあり、自分が体験してこなかった、ゴーヤを育てる、エコショッピング・クッキング、マイ傘袋づくりなどの開催に関わりながら自分も体験し、商店街の皆さんと一緒にエコポイントカードを始めて、地域の活動グループとも協力して登戸まちなか遊縁地開催と、これ以上はない！と思うくらい充実した活動ができました。

湯山美穂

当協議会での活動は、私にとっていきなりのことで、知らない世界の事でした。ですが、普通に過ごしていたら知ることのできない事を見聞きでき、とても勉強になりました。いくつかの場面では、自分の経験が生かせるところもあり、手応えを感じることもできました。

まち Café では、ゲスト団体や一般の参加者の方々に、いい交流が生まれているなど見えた時に、また、まち大学では、講師の方と来場者の気持ちが寄り添っていると感じられた時、皆さんのお役に立てたのかなと感じることができました。関係者の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

余湖英子

まちづくり協議会での検討課題の取組は、様々な分野の方々との意見交換を通して、豊富な情報や深い知識に触れた貴重な時間でした。

回を重ねるうちに地域の理解もさらに深まり、とても有意義な活動でした。

これからも暮らしを取り巻く身近な課題に眼を向けて、改善、解決に関心を寄せていきたいと思えます。

コラム

多摩★まち Cafe を企画・実施してみて

野村高寿

私は2017年度の多摩★まち Café「生田緑地をまるごと楽しもう」の提案者として、リーダーとして関わりました。提案するにあたり、生田緑地は生物多様性という点で、全国7位であること、世界有数の大都市東京の直ぐ隣にこのような緑地が存在することは、ほとんど奇跡に近いこと、またその素晴らしい緑地を維持するためにたくさんのボランティア団体が緑地で活躍していることなど、今回のまち Café で、3団体に参加していただき、生田緑地の素晴らしさ、貴重であること、維持していくことの難しさ等を語っていただき、意見交換し、交流を深め合う事を提案しました。また、実施するにあたっての話し合いの中で、どうせなら生田緑地で開催しようということになりました。そこから一転、なるべく多くの参加者をということになり、より魅力的な内容となり、生田緑地の三館、民家園、宙と緑の科学館、岡本太郎美術館がメインの話へと変貌？していき、私は絶句……。生田緑地側と話し合いの結果、生田緑地整備事務所の矢口さん、生田緑地運営共同事業体の額谷さん、向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会の松岡さんをゲストに決定。当日は緑地そのものの話が中心となり、結果オーライでした！

第6章 これまでの活動・会議

1 多摩区まちづくり協議会年度別総括表

種 別		2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	
たまサロン		1	1	1	1		
多摩★まち大学(2011 年度スタート)					3	5	
他都市視察研修				3	1	1	
多摩★まち Café(2012 年度スタート)						2	
まちカツ!			1	1	1	1	
合 計		1	2	5	6	9	
プロジェクト	①区民でつくろう、地域交通						
	②花とみどりでまちづくり						
	③多摩区の観光資源・地産地消のマップづくり						
	④多摩の居場所ふらっと						
	⑤家庭の「資源物」分別回収を広めよう						
	⑥まちづくりネットワーク応援隊						
	⑦多摩エコスタイル						
	⑧マグネット多摩						
	⑨たまむすび						

2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	合 計
1		1	2	8	4	2	22
12	3	7	7	3	2	3	45
1	1	1	1	1	1	1	12
2	2	1	2	3	3	3	18
1	1	1	1	1	1	1	11
17	7	11	13	16	11	10	108

2 多摩区まちづくり協議会活動年表

<2008年度～2013年度・その1>

種別	2008 (H20)年度	2009 (H21)年度	2010 (H22)年度
たまサロン	9/12 9つのテーマを用意し、希望するテーマのグループに分かれ意見交換を行う ①安全・安心な地域生活環境づくり ②地域の支え合い・生涯現役 ③地域で子育てができるまちに ④環境配慮・循環型の地域社会づくり ⑤緑の保全と活用・地産地消・農の振興 ⑥産業・商業の賑わいづくり ⑦都市拠点の整備と魅力づくり ⑧地域資源・観光資源等まちの魅力の活用 ⑨市民自治の推進と協働のしくみづくり	9/28 様々テーマで活躍している団体に話を聞き、関心のあるテーマごとにグループ分けをして意見交換 ①コミュニティ交通:長尾台コミュニティ交通導入推進協議会 ②緑地の保全:こもれびの会 ③地域の支え合い活動:(特非)虹ヶ丘コミュニティ ④団体間のネットワークづくり たまよこネット	2/11 まちカツ!の第2部として開催 第1部のまちカツ!で事例紹介した3団体(長沢ひろば・のぼりとゆうえん隊・岡さんの家 TOMO)を囲んで、グループに分かれて意見交換
まち大学 2011年度			

※講師等の肩書は当時のもの

2011 (H23)年度	2012 (H24)年度	2013 (H25)年度
<p>9/12 未解決の課題や新たな課題など5つのテーマについて参加者と語り合い、新たなプロジェクトの立ち上げにつなげていく</p> <p>テーマ</p> <p>①子ども・子育て ②学びの場 ③若者の地域参加 ④観光の推進 ⑤地域の環境</p>		<p>5/23 ～多摩区をどんなまちにしたいですか？～</p> <p>テーマ</p> <p>①多世代がつながるまちに ②地域でできるエコを考えよう ③学びの場を広げよう ④活動しやすいまちってなんだろう</p>
<p>11/10 車座勉強会 安心して歳を重ねるために PART4 生活習慣病(がん)の予防と治療(多摩の居場所ふらっとP)</p> <p>講師:川崎市医師会 国保久光</p>	<p>6/29 超初心者 IT 学習会Ⅱ(多摩の居場所ふらっとP)</p> <p>講師:専修大学ネットワーク情報学部 上平プロジェクト所属学生3名</p>	<p>7/12 「シェーナウの想い」映画上映会&エネルギーを考えるワークショップ(多摩エコスタイルP)</p>
<p>11/23 IT 学習会中級編「ホームページで情報発信」(まちづくりネットワーク応援隊P)</p> <p>講師:(株)世田谷社 代表取締役 市川 徹</p>	<p>9/3 「地域の活動を元気にする!活動を自立させるコツ」～ソーシャルデザインに学ぶこれからの市民活動～</p> <p>講師:専修大学経済学部 教授 徳田賢二</p>	<p>「孫に好かれるシニアになろう」地域としての子育て支援の実現を目指した3回連続講座</p> <p>7/31 第1回 知る 「多摩区における子育ての現状を知る」</p> <p>講師:</p>
<p>12/5 超初級 IT 学習会「メールとインターネットとは」(まちづくりネットワーク応援隊P)</p> <p>講師:「のぼりとゆうえん隊」 隊長 野仲将生</p>	<p>11/29 車座勉強会 安心して歳を重ねるために～病気を治し元気で長生きしよう～(多摩の居場所ふらっとP)</p> <p>講師:コクボ診療所所長 国保久光</p>	<p>①多摩区役所子ども支援室 担当課長 太山和枝</p> <p>②(特非)ままとんきっず 理事長 有北いくこ</p> <p>③多摩区こどもの外遊び委員会 委員長 稲田光世</p> <p>④月見台自治会・月見台まちづくり委員会 委員長 池野 廣</p>
	<p>3/8 ゴーヤの育て方講習会(エコスタイルP)</p>	<p>8/2、5、9、19、24 第2回 視る 団体の活動現場を観る、声を聴く」</p> <p>①(特非)ままとんきっず</p> <p>②多摩区こどもの外遊び委員会</p> <p>③月見台自治会</p> <p>9/7 第3回 考える 「シニアが子ども達の為にできること」</p> <p>土淵保育園園長 福田和子</p>
	<p>3/20 エコショッピング・クッキング(エコスタイルP)</p>	<p>11/20 車座勉強会「風邪を引くのも悪くない」(多摩の居場所ふらっとP)</p> <p>講師:コクボ診療所所長 国保久光</p>
		<p>12/4 他都市視察研修会振り返り茶話会</p>
		<p>3/5、29 エコショッピング・クッキング(エコスタイルP)</p>

<2008年度～2013年度・その2>

種別	2008 (H20)年度	2009 (H21)年度	2010 (H22)年度
視察研修			11/18 視察研修 in 横浜 ①横浜市泉区役所 ②港南区民活動センター ③(株)イータウン まちづくりフォーラム ④港南台タウンカフェ その他 10/29 相模原市緑区城山地区まちづくり会議 視察研修受入 11/9 犬山市職員視察研修受入
まちCafé (2012年度)			
まちカツ!		2/6 講演:今求められる地域の支え合い 講師:(財)さわやか福祉財団 ふれあい推進事業 プロジェクトリーダー 木原勇	2/11 まち協活動発表 (3プロジェクト) ①世代間の交流ができる コミュニティセンターをつくろう ②観光資源・地産地消の マップづくり ③まちづくりネットワーク応援隊
全体研修	7/24 これまでの組織と新体制、活動のイメージ ワークショップの方法、企画のまとめ方	6/22 まちづくりとワークショップについて 意見の記録の仕方とワークショップの進め方	8/3 会議の進め方、まとめ方のコツ! こんな活動をしていきたい! 意見交換

2011 (H23)年度	2012 (H24)年度	2013 (H25)年度
11/19 練馬区と三鷹市のまちづくりの現場を観る ①練馬区まちづくりセンター ②三鷹市市民協働センター ③三鷹ネットワーク大学	10/31 柏の葉の先進的なまちづくりの取組を観る ①NPO 支援センターちば ②柏の葉フューチャービレッジ ③アーバンデザインセンター柏 ④環境コンビニステーション	11/1 藤野の住民がつくる持続可能なまちづくりの取組を観る ①ふじのアートヴィレッジ ②牧郷ラボ ③藤野倶楽部 ④(特非)ふじの里山くらぶ ⑤(特非)篠原の里
	9/26 「多摩区まちづくり協議会が「カフェ」をはじめました」 テーマ「環境」 ①日向山うるわし会 ②多摩川エコミュージアム ③かわさきかえるプロジェクト ④長尾台コミュニティ交通推進協議会 ⑤川崎フューチャーネットワーク	9/25 安心して子育てできるまち多摩～まちぐるみでできる子育てってなんだろう！ みんなが Happyになれる多摩区流子育てを語り合う～ ①多摩区公園を拠点としたコミュニティづくり推進委員会 ②たまたま子育てネットワーク ③多摩★まち大学「孫に好かれるシニアになろう」からの提案
	12/7 テーマ「こども」 ①多摩区でプレーパークをやっちゃおう会 ②(特非)ぐらす・かわさき ③かわさき水辺の楽校 ④多摩区民生委員児童委員協議会	11/11 多世代交流を広げよう ～子どもからお年寄りまで、気軽につながる ことができる地域をつくりたい！実践している人に聞いてみよう～ ①みた・まちもりカフェ ②たまザーもも倶楽部 ③コミュニティカフェまめり
2/11 講演:元気のいいまちづくり～地域を知れば仲間ができる！～ 講師:田園調布学園大学人間福祉学部 教授 村田祐一	2/9 講演:広げようみんなの力！多摩のまちづくり 講師:(有)場所づくり研究所 プレイス 代表 福永順彦	2/11 講演:広げようみんなの力！ 講師:(特非)ハンズオン!埼玉 代表 西川 正
7/27 最近のインターネットと市民活動を知る	6/18 「これまでのまち協」、「多摩区の事業展開・協働事業」、「活動についての取扱い・会計事務の取扱い」を知ろう SWOT分析を通して、今後のまち協のあり方を考えよう	6/24 市民活動のための人材力アップセミナー

<2014 年度～2019 年度・その1 >

種別	2014 (H26)年度	2015 (H27)年度	2016 (H28)年度
たまサロン		5/26 まち協の活動について語り合おう ①地域で広げるエコ活動 (多摩エコスタイル P) ②遊び場 X シニアの地域参加 (たまむすび P) ③団体や区民の学びの場 (研修企画部) ④団体と区民をつなぐ情報 (マグネット多摩 P) ⑤団体と区民をつなぐ情報 (広報編集部)	10/15 出張たまサロン (区民祭において来場者にまちづくりに関する関心項目についてアンケートを実施) 11/24 子育て・高齢者・みどり・エコな暮らし・若者が活躍できる街・・・あなたの描く多摩区はどんなまちですか？ ①情報提供 「出張たまサロン報告」 ②グループセッション 1「多摩区での暮らしに必要なものは何？」 ③グループセッション 2「豊かな暮らしを実現するアイデアを出し合おう！」
まち大学 (2011 年度)	6/28 楽しくはじめる地域カソドウのコツ～見方を変えると地域が 10 倍楽しくなる～ 講師:(特非)ハンズオン!埼玉 代表 西川 正	「知って得する地域包括ケアシステム先取り講座」 地域包括ケアシステムをテーマとした 4 回連続講座 8/29 第 1 回「市独自の地域包括ケアシステムを知ろう！」 講師:健康福祉局地域包括ケア推進室 担当課長 熊切真奈美 多摩区役所地域保健福祉課 担当課長 富澤美奈子	4/23 緑のカーテンを作ろう ゴーヤの育て方講習会 (エコスタイル P) 8/5、3/29 エコショッピング・クッキング (エコスタイル P)
	8/30 40 代からはじめる地域活動のススメ～地域に役立つオヤジになろう～ 講師:(特非)川崎創造プロジェクト 代表理事 大下勝巳	9/24 第 2 回「地域でシニアライフを 2 倍 3 倍楽しむヒントを探ろう！」 講師:東京都健康長寿医療センター 社会参加と地域保健研究チーム 研究部長 藤原佳典	「あなたのチカラを地域で活かそう」 地域包括ケアシステムをテーマとした 4 回連続講座 12/12 第 1 回「地域包括ケアシステムの取組を学ぼう」 講師:多摩区役所地域ケア推進担当 担当係長 小玉貴子 多摩区役所地域支援担当 担当係長 池上洋未 あうん介護センター所長 吉澤 保
	9/30 知っていたら絶対変わる!市民活動のための集客術 講師:研修企画部代表 高瀬健男 石塚計画デザイン事務所 東京事務所所長 千葉晋也	10/10 第 3 回「ワークライフバランスを考えよう」～森の中のキャンパスカフェで語ろう～ 講師:日本女子大学社会福祉学科 准教授 黒岩亮子 多摩区役所こども支援室 室長 太山和枝	1/27 第 2 回「高齢者支援サービスの取組事例を知ろう」 講師:かりがね台自治会 会長 本多武夫 すずの会代表 鈴木恵子 多摩区まちづくり協議会 倉田 宏
		11/7 第 4 回「地域の暮らしを楽しくするつながりをつくろう」 講師:日本女子大学社会福祉学科 准教授 黒岩亮子 多摩区役所地域保健福祉課 担当課長 富澤美奈子 担当係長 松島敦子	2/24 第 3 回「子ども・子育て支援を知ろう・学ぼう」 講師:日本女子大学社会福祉学科 准教授 黒岩亮子 多摩区役所地域みまもり支援センター 担当部長 太山和枝 たまむすび代表 稲田光世
		12/10 「知って得する地域包括ケアシステム先取り講座」 振り返り茶話会	3/13 第 4 回「地域でできる生活支援サービスの担い手づくりを考えよう」 講師:多摩区役所地域ケア推進担当 担当係長 小玉貴子 すずの会代表 鈴木恵子
		8/20、3/29 エコショッピング・クッキング(エコスタイル P)	

2017 (H29)年度	2018 (H30)年度	2019 (R 元)年度
5/27、6/11、7/15、9/16、10/14、11/11、11/18 出張たまサロン 12/3 子育て・高齢者・みどり・エコな暮らし・若者が活躍できる街・・・あなたの描く多摩区はどんなまちですか？ ①情報提供 「出張たまサロン報告」 ②グループ意見交換 「多摩区での暮らしに必要なものは何？」 ③グループ意見交換 「豊かな暮らしを実現するアイデアを出し合おう！」	9/18.19.20、10/20 出張たまサロン	10/19 出張たまサロン（区民祭） 11/30 「多摩区を元気にするためには！」 講演:のぼりとそだて隊 高山康司 4つのグループに分かれ、日々の暮らしの困りごとや課題について、解決アイデアを生み出した
8/5 エコショッピング・クッキング（エコスタイルP）	12/4 健康づくりと地域コミュニティー～あなたの健康寿命をのばすには～ 講師:千葉大学予防医学センター 特任助教 辻 大士	11/11 ”地域の見守り・支え合い”と”お互いさま”の安心の街づくり 講師:「共育ひろば」 牧岡英夫
1/20 市民活動の資金調達について～クラウドファンディングを中心として～ ①市民活動のための資金調達の仕方 講師:(特非)新川崎放送協会 代表理事 加藤寛理 ②かわさき市民しきんについて 講師:(一財)かわさき市民しきん 代表理事 廣岡希美 ③クラウドファンディングの活用事例紹介 講師:国立本店「ほんともち編集室」 代表 加藤健介	3/2 「がんばりすぎない子育て きっとだいじょうぶ」 講師:川崎市子ども夢パーク 所長 西野博之	1/29 空き家の現状・課題と利活用について～地域の資源として～ テーマ1:空き家の現状と課題、市としての取組 麻生区王禅寺西における空き家利活用モデル事業 講師:まちづくり局住宅整備推進課 担当係長 吉田研史 テーマ2:空き家・空き室の地域への活かし方 講師:(一財)世田谷トラストまちづくり 田中瑞穂
2/25 集客・広報の仕組み入門編～集まるのには理由がある～5つのテーマ ①集客の公式 ②ターゲット別アプローチのあり方 ③反応ある広報手段 37 ④反応率の向上方法 29 ⑤失敗しないコラボレーション 講師:FM at. 加藤寛理		2/20 思いやりに満ちた社会をつくるには～地域で子どもを守ろう～ テーマ1「防犯と非行防止」 講師:多摩警察署 スクールサポーター 藤木 清 テーマ2「少年補導の現状と思う事」 講師:多摩少年補導員 遠藤 亨

<2014年度～2019年度・その2>

種別	2014 (H26)年度	2015 (H27)年度	2016 (H28)年度
視察研修	11/14 立川市大山自治会に観る驚きのコミュニティー再生術～「市能工商」?で命と暮らしを守るまちづくり学ぶ ①立川市大山自治会 ②国立市「はたけんぼ」	10/29 防災×「学童」支援 地域住民によるコミュニティーづくり ①墨田区「本所防災館」 ②葛飾区「堀切西町会」 ③荒川区「すくすくスクール」	3/23 国立の住民による大学・商店街と連携したまちづくりを学ぶ ①コミュニティスペース国立本店 ②くにたち富士見台人間環境キーステーション ③くにたち地域コラボ ④コミュニティスペース「コトナハウス」、「Chika-ba」
まち Cafe (2012年度)	7/23 歴史カフェ 親子で知ろう! 多摩の歴史一区内で「歴史」に関する4つの活動団体からの発表・情報共有 ①稲田郷土史会 ②日本民家園「炉端の会」 ③登戸研究所保存の会 ④たま文化財ボランティアの会	6/6 大学×子ども～多摩区ならではの「学び」を親子で体験しよう～ ・日本女子大学 (SAKU LABO (サクラボ)) ・明治大学(多摩区子ども探求クラブ・登戸探求プロジェクト) ・専修大学(ネットワーク情報学部)との協働で開催	12/10 食を通じた地域の人々とのつながり～孤食をなくす、まちづくりのために～ 第1部講演 ・日本女子大学社会福祉学科 准教授 黒岩亮子 ・多摩区民生委員児童委員協議会 上原 武 ・遊友ひろば寺子屋 田代美香 ・すげ寺子屋食堂福昌寺 飯沼康祐、矢車佑介 第2部交流会
	3/22 カフェ de 折り紙～折り紙で多世代交流～ 区内で折り紙に関する3つの活動団体をお招き子どもも大人も折り紙を通して多摩区の事を楽しく知る		3/23 地域デビューひろば～集まれ!多摩区で活動したい人!～ ①講演「ボランティア・市民活動って何だろう」 講師: 共育ひろば主宰 牧岡英夫 ②団体の活動紹介 (21 団体) ③団体との交流
まちカツ!	2/11 講演:多摩川を鮎が遡上する清流に 講師:川崎河川漁業協同組合 組合長 井口文夫	2/11 講演:岡本みね子、人生を語る 講師:映画「ゆずり葉の頃」 監督 岡本みね子	2/11 講演:「データが語る「つながり」と「コミュニティ」の重要性 講師:(特非)CRファクトリー 代表理事 呉 哲換
全体研修	6/18 会議運営に役立つ、ファンリテーション		8/29 公式ホームページの基本的な情報<初級編> ブログ記事の編集方法<中・上級編>、 「Facebook」の活用方法

2017 (H29)年度	2018 (H30)年度	2019 (R 元)年度
11/29 横浜のまちで実践されている「アート」&多世代交流」2つのまちづくり ①黄金町エリアマネジメントセンター(中区) ②コミュニティカフェさくら茶屋(金沢区)	11/20 地域コミュニティに関する先進取組視察 ①(株)まちづくり立川 ②村山団地中央商店街の送迎自転車サービス ③(特非)めじろむつみクラブ	11/28 横浜で実践されている先進のまちづくり活動支援 ①ことぶき協働スペース ②massXmass 関内フューチャーセンター
10/31 地域の寺子屋を知ろう～寺子屋 de カフェ～多摩区内の「地域の寺子屋事業」運営団体からの情報提供 ①寺子屋ひがしすげ・寺子屋のぼりと ②みた・まちもり寺子屋 ③寺子屋南生田	11/27 身近なところに地域交流の場をつくらう ①地域の支え合いの和(特非)あいぜん ②子どもを支える環 三田サポートわなり ③いざという時助けられる地域の輪 菅町会	10/30 子連れで行ける癒しの空間 ①おしゃべりサロンあゆみ ②コミュニティーハウスMUKU ③中野島ファミリーカフェ(まちプロ中野島)
11/14 こんな助け合い活動を始めました ①4 団体の事例紹介 (コミュニティカフェとて・おでんせ中野島・ほっこりカフェ中野島・大谷自治会) ②グループワーク	2/26 ママと子どもの子育て Lab. 地域に根差したユニークな子育て支援について聞く ①(特非)ままとんきっず ②いくたまちぐみ ③ヤクルト(神奈川東部ヤクルト販売株式会社)	11/17 ゲーム体験型防災カフェ 東生田小学校で避難所運営ゲーム(HUG)
3/21 生田緑地をまるごと楽しもう ①「生田緑地の自然の魅力～自然と人とのかかわり」 生田緑地整備事務所 担当係長 矢口菊子 ②「多様な主体をつなぎ・創り上げる魅力あるイベント」 生田緑地運営共同事業体 額谷悠夏 ③「生田緑地の「おもてなし」」 向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会事務局長 松岡嘉代子	3/20 身近なところに「地域交流の場」をつくらう！パートⅡ 地域カフェを運営している、または計画している町内会・自治会をお招きし、お話を聞く ①山の手 café ②くりやカフェ「マロン」 ③カフェ準備中町会	12/7 「色とりどりの・ツリーをつくらう」 障害者・高齢者の支援施設が合同で開催の「ウェルネス 2019」へ出展、Mijin の○△□ワークショップを開催
2/11 講演:まちづくりの主役はあなたです！～地域活性化のために～ 講師:㈱日本総合研究所 主席研究員 藻谷浩介	2/11 講演:あなたの行動で「地域が変わる！～家族・地域・未来のために～ 講師:(一社)カワサキノサキ 代表理事 田村寛之	2/11 多摩区まちづくり協議会活動報告
8/14 ファシリテーションを学ぼう ファシリテーションとは、模擬ワークショップ	10/31 まち協のこれからを考える	

3 広報紙「私たちのまちづくり」索引一覧表

通番	発行日	号数	
1	2009.01	22	・会長 副会長あいさつ・プロジェクト参加者募集・たまサロン報告・まちづくりカレンダー・編集後記
2	2009.04	23	・6つのプロジェクトがスタート・プロジェクト紹介・市民自治創造・かわさきフォーラム報告・まちづくりカレンダー・編集後記
3	2009.09	24	・プロジェクト参加者募集・たまサロン参加者募集・プロジェクト紹介・歳時記・まち協のなかまたち・まちづくりカレンダー・編集後記
4	2009.12	25	・他都市視察研修会報告・たまサロン報告・まちカツ!お知らせ・プロジェクト紹介・歳時記・まち協のなかまたち・まちづくりカレンダー・編集後記
5	2010.01	26	・まちカツ!開催チラシ
6	2010.04	27	・まちカツ!報告・第1期の活動を終えて(プロジェクト)・歳時記・まち協のなかまたち・まちづくりカレンダー・編集後記
7	2010.09	28	・新しい仲間が集まり第2期がスタート!・会長あいさつ・役員紹介・新しい組織・体制にしました・会議などのスケジュール・プロジェクト紹介・歳時記・まち協のなかまたち・まちづくりカレンダー・編集後記
8	2010.12	29	・他都市視察研修会報告・他都市受け入れ報告・プロジェクト活動紹介・歳時記・まち協のなかまたち・まちづくりカレンダー・編集後記
9	2011.01	30	・まちカツ!・たまサロン開催チラシ
10	2011.04	31	・まちカツ!・たまサロン報告・まちカツ!報告・たまサロン報告・プロジェクト活動報告・歳時記・まち協のなかまたち・まちづくりカレンダー・編集後記
11	2011.08	32	・多摩★まち大学スタートしました・平成23年度総会を終えて・各プロジェクトの活動計画・方針・歳時記・平成23年度年間スケジュール・まちづくりカレンダー・編集後記
12	2011.10	33	・平成23年度たまサロン開催・たまサロンのワークショップの流れと新たな課題への挑戦・第1回多摩★まち大学の報告と今後の方針について・歳時記・プロジェクト活動進行中・まちづくりカレンダー・編集後記
13	2011.12	34	・多摩★まち大学大反響・他都市視察研修会報告・練馬・三鷹のまちづくりの現場を訪ねて・多摩★まち大学報告①・多摩★まち大学報告②・プロジェクト活動進行中・歳時記・まち協ホームページリニューアル・まちづくりカレンダー・編集後記・まちカツ!予告
14	2012.03	35	・まちカツ!盛況裏に幕・ポスターセッション&ポスター展示・まち協ホームページができました・第2期の活動を終えて・プロジェクト活動報告・歳時記・活動支援情報・編集後記
15	2012.08	36	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
16	2012.10	37	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
17	2012.12	38	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
18	2013.03	39	・多摩の風景・まちカツ!報告・まちカツ!講演会・ポスターセッション&ポスター展示・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
19	2013.08	40	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
20	2013.10	41	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
21	2013.12	42	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
22	2014.03	43	・多摩の風景・まちづくりTOPICS・まちカツ!報告・まちカツ!講演会・まちカツ!ポスターセッション&ポスター展示・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
23	2014.08	44	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
24	2014.10	45	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
25	2014.12	46	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
26	2015.03	47	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・まちカツ!まち協報告・まちカツ!講演会・まちカツ!ポスターセッション&ポスター展示・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
27	2015.07	48	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
28	2015.10	49	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
29	2015.12	50	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
30	2016.03	51	・多摩の風景・まちカツ!まち協報告・まちカツ!講演会・ポスターセッション&ポスター展示・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・たまの顔・編集後記
31	2016.07	52	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・新会長あいさつ・編集後記
32	2016.10	53	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・多摩の明日に向かって・編集後記
33	2016.12	54	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・多摩の明日に向かって・編集後記
34	2017.03	55	・多摩の風景・まちカツ!報告・まちカツ!講演会・まちカツ!ポスターセッション&ポスター展示・まち協まちづくりTOPICS・歳時記・たま今昔・多摩の明日に向かって・編集後記
35	2017.06	56	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・まち協第5期後半の取り組み・編集後記
36	2017.09	57	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・多摩区内の小学校・たま今昔・編集後記
37	2017.12	58	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・多摩区内の小学校・多摩の明日に向かって・編集後記
38	2018.03	59	・多摩の風景・まちカツ!まち協報告・まちカツ!講演会・ポスターセッション&ポスター展示・まちづくりTOPICS・多摩区内の小学校・たま今昔・編集後記
39	2018.06	60	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・多摩区内の小学校・多摩の明日に向かって・編集後記
40	2018.09	61	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・多摩区内の小学校・たま今昔・編集後記
41	2018.12	62	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・多摩区内の小学校・多摩の明日に向かって・編集後記
42	2019.03	63	・多摩の風景・まちカツ!まち協報告・まちカツ!講演会・まちカツ!ポスターセッション&ポスター展示・まち協まちづくりTOPICS・多摩区内の小学校・たま今昔・編集後記
43	2019.06	64	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・多摩区内の小学校・多摩の明日に向かって・編集後記
44	2019.10	65	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・多摩区内の小学校・編集後記
45	2020.01	66	・多摩の風景・まち協まちづくりTOPICS・多摩区内の小学校・編集後記
46	2020.03	67	・12年間ありがとう!・広報編集部より一言・シリーズを振り返って・まちカツ!まち協報告・ポスターセッション&ポスター展示・まちカツ!終了後の懇親会・まち協まちづくりTOPICS・多摩区内の小学校・まち協広報誌索引一覧表

会議の進め方例（順不同）

本多正典

独断専行を避けるために、会議は大変重要です。参加者の意見に耳を傾け正しい（ふさわしい）結論を導く工夫が必要です。私が議事進行する会議でいつも気を付けていることは下記の様な事柄です。

- ・ 会議時間をできるだけ守る
- ・ 会議のはじめと終わりのけじめをつける
- ・ 議事次第は必ず作る（できれば事前に配布）
- ・ ややこしい議題は事前にキーマン（行政、コンサルなど）と調整しておく
- ・ 採決をとるが、強引な誘導も時には必要
- ・ 人（発言）の揚げ足を取らない
- ・ 発言をすぐ否定しない（反対意見は先の発言者に配慮する）
- ・ 合議制なので自己主張はあまりしない
- ・ 会議内容に関係ない発言も”後で取り上げましょう”とかやんわりと本題と違うことを知らしめる
- ・ なるべく参加者全員に発言を求める。場合によっては指名する
- ・ 発言を遮らない。ただし冗長すぎたり長い場合はその限りではない
- ・ 感情的な発言をさせない（しない）
- ・ 議事録／摘録はできる限り作成する
- ・ 言い出しべに責任や作業を押し付けない
- ・ 会議はなるべく楽しい雰囲気を作る（規律は守る）

多摩区まちづくり協議会設置要綱

平成20年6月25日

20川多地第68号

(目的及び設置)

第1条 多摩区民、多摩区内において活動を行う団体等（以下「区民等」という。）が行う多摩区内のまちづくり（以下「まちづくり」という。）に関する活動に対する支援並びに区民等との連携を図りながらまちづくりに関する課題の提起及びその解決のための実践を川崎市と協働して行うため、多摩区まちづくり協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の活動)

第2条 協議会の活動は、次に掲げるとおりとし、多摩区役所と連携を図りながら行うものとする。

- (1) 区民等がまちづくりに関する活動の情報を交換する場づくり
- (2) 区民等が行うまちづくりに関する活動を支える情報の調査、収集及びこれらから得られた情報の区民等への提供
- (3) 区民等のまちづくりに関する意見、川崎市から提示されたまちづくりに関する課題等の協議及び検討
- (4) 前号に掲げる活動により得られたまちづくりに関する課題を解決するための企画及び区民等との協働によるその実践

(協議会の委員)

第3条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、次に掲げる者（別に設置する組織により承認された者に限る。）とする。

- (1) 多摩区内において活動を行う団体（別に設置する組織により承認されたものに限る。）から推薦された者
- (2) 委員に応募した者
- (3) その他協議会の目的を達成するために必要と認められる者

2 委員の任期は、原則として2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(協議会の役員)

第4条 協議会に次の役員を置き、委員の互選により定める。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 会計 1名
- (4) 会計監査 1名

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

4 会計は、協議会の会計事務を処理する。

5 会計監査は、協議会の会計を監査する。

6 役員任期は、原則として2年とする。ただし、補欠として選任された役員任期は、前任者の残任期間とする。

7 役員は、再任されることができる。

(協議会の組織及び会議)

第5条 協議会の組織は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 総会
- (2) 運営委員会
- (3) 研修企画部
- (4) 広報編集部
- (5) プロジェクト

2 前項に掲げるもののほか、運営委員会の決定により、臨時の組織を設置することができる。

3 協議会の会議（以下「会議」という。）は、第1項第1号及び第2号に掲げる組織において、それぞれ開催されるものとする。

4 会議は、第6条第3項及び第7条第4項に規定する組織の代表がそれぞれ招集し、その会議の議長となる。

5 会議は、構成員の3分の1以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

6 会議の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（総会）

第6条 総会は、次に掲げる事項を行なう。

- (1) 協議会の事業の計画及び実施結果の報告
- (2) 協議会の予算及び決算の報告
- (3) 協議会の役員の承認
- (4) 組織の変更又は運営に関することのうち、特に重要と認められる事案の報告

2 総会は、全ての委員をもって構成する。

3 協議会の会長は、総会を代表する。

（運営委員会）

第7条 運営委員会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 第6条第1項第1号、第2号及び第4号に規定する総会において報告する事案の決定及び承認並びに総会での報告
- (2) 役員候補者の選出及び総会への付議
- (3) 第5条第1項第3号、第4号及びに規定する組織から付議された議案の検討
- (4) 協議会の運営及び組織に関する事案（第2号に掲げる事項を除く。）の決定又は承認
- (5) 協議会の活動に必要な情報の収集
- (6) 区民等がまちづくりに関する活動の情報を交換する場づくりの企画及び実施
- (7) 協議会の活動を発表する場づくりの企画及び実施
- (8) 区民等へのヒアリングの企画及び実施
- (9) 第9条第1項に規定するプロジェクトの支援
- (10) 協議会の各組織間の調整

2 運営委員会は、第4条第1項に掲げる協議会の役員、第8条第3項に規定する編集代表及び第9条第5項に規定するプロジェクト代表をもって構成する。ただし、第1項6号から8号に規定する事項に関してのみ、企画又は実施に関わる委員及び第9条第3項に規定する区民等を運営委員会の構成員とすることができる。

3 運営委員会に委員長及び副委員長を置き、協議会の会長及び副会長をそれぞれ充てる。

4 委員長は、運営委員会を統括し、代表する。

（研修企画部）

第8条 研修企画部は、運営委員会と連携を図りながら、まちづくりに関する活動に必要な研修や市民活動団体等の発表と交流の場を企画、実施する。

- 2 研修企画部は、委員のうち立候補又は推薦により選出された者及び参加を希望する区民等をもって構成する。
- 3 研修企画部に研修企画部代表を置き、研修企画部を構成する委員の互選により定める。
- 4 研修企画部代表は、研修企画部を統括し、代表する。

(広報編集部)

第9条 広報編集部は、運営委員会と連携を図りながら、広報紙等の企画、編集、発行及び配布を行う。

- 2 広報編集部は、委員のうち立候補又は推薦により選出された者及び参加を希望する区民等をもって構成する。
- 3 広報編集部に広報編集部代表を置き、広報編集部を構成する委員の互選により定める。
- 4 広報編集部代表は、広報編集部を統括し、代表する。

(プロジェクト)

第10条 プロジェクトは、運営委員会と連携を図りながら、まちづくりに関する課題を解決するための企画及び区民等との協働によるその実践を行う。

- 2 プロジェクトは、必要に応じて複数設置することができる。
- 3 プロジェクトは、委員及び企画に賛同する区民等をもって構成する。
- 4 委員(研修企画部及び広報編集部を構成する者を除く。)は、少なくとも一つのプロジェクトに属さなければならない。
- 5 プロジェクトにプロジェクト代表を置き、それぞれのプロジェクトを構成する委員及び企画に賛同する区民等の互選により定める。
- 6 プロジェクト代表は、自らが属するプロジェクトを統括し、代表するとともに、プロジェクト間の情報の交換を行い、運営委員会で活動の報告を行う。
- 7 プロジェクト代表は、委員である必要はない。ただし、委員でない者がプロジェクト代表となった場合は、第3条第1項第3号の規定を適用し委員となる。

(兼務)

第11条 第4条第1項に定める役員は、第8条第3項に規定する研修企画部代表、第9条第3項に規定する広報編集部代表及び第10条第5項に規定するプロジェクト代表のいずれかの職を兼ねることができるものとする。ただし、複数のプロジェクト代表を兼ねることはできない。

(事務局)

第12条 協議会の事務局は、多摩区役所区まちづくり推進部地域振興課に置く。

(その他必要な事項)

第13条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は運営委員会と多摩区役所が協議して定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成20年6月25日から施行する。

(多摩区まちづくり推進協議会設置要綱の廃止)

- 2 多摩区まちづくり推進協議会設置要綱(平成12年4月20日施行)は、廃止する。

附 則

この要綱は、平成22年6月23日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

多摩区まちづくり協議会プロジェクト評価委員会設置要綱

平成22年3月31日
21川多地第279号

(目的及び設置)

第1条 多摩区まちづくり協議会設置要綱第10条に規定するプロジェクトにおける企画又は活動内容について、多摩区まちづくり協議会(以下「協議会」という。)の設置目的に沿って評価を行うため、多摩区まちづくり協議会プロジェクト評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について審議を行い、その結果を協議会に報告するものとする。

- (1) プロジェクトの新規設置に関すること。
- (2) プロジェクトの継続又は廃止に関すること。
- (3) その他プロジェクトにおける企画又は活動内容に関すること。

(組織)

第3条 委員会の委員は、次に掲げる者をもって充てる。

- (1) 協議会会長
- (2) 協議会副会長
- (3) 協議会会計
- (4) 協議会会計監査
- (5) 協議会研修企画部代表
- (6) 協議会広報編集部代表
- (7) 副区長(まちづくり推進部長兼務)
- (8) 地域振興課長

2 委員会に委員長を置き、協議会会長をもって充てる。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 委員長に事故あるとき、又は欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、決議には出席委員の過半数の同意を要する。ただし、委員は、自らの所属するプロジェクトの審議に関して意見を述べ、及び決議することができない。

(事務局)

第5条 委員会の事務局は、多摩区役所まちづくり推進部地域振興課に置く。

(その他必要な事項)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成22年3月31日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年6月23日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

編集後記

この報告書は、多摩区まちづくり協議会が2020年3月末をもって発展的解消をするにあたり、これまでの活動を広く皆さまに知っていただくとともに、これからのまちづくりの参考にさせていただくことを主旨として作成されたものです。

本書では報告者が淡々と活動の状況を述べていきますが、これまで原稿の作成からチェックまで何度も打ち合わせを行ってまいりました。本書が汗と涙の結晶の賜物であることを、行間から読み取っていただけると幸いです。

最後になりますが、多摩区まちづくり協議会のイベントなどでお世話になった皆さま、特に市民活動団体や参加者の皆さま、ゲストの皆さま、本当にありがとうございました。地域振興課の皆さまにも大変お世話になりました。

まち協総括検討委員会

委員 野村高寿

まち協総括検討委員会

(委員長) 本多正典

(委員) 葛生 茂・辻野勝行・矢野久喜・安井 浩

野村高寿・粕谷充子・加藤寛理

協 力 株式会社 社会空間研究所

事 務 局 多摩区役所まちづくり推進部地域振興課

〒214-8570 川崎市多摩区登戸 1775-1

TEL : 044-935-3148 FAX : 044-935-3911

E-mail : 71tisin@city.kawasaki.jp

発 行 日 令和2年3月



多摩区